

令和2年度
事業報告

はじめに

社会福祉法人制度改革により、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組を実施する責務など、社会福祉法人の公益性・非営利性を確保する観点から法人の在り方が見直された。

そのような情勢下、2025年に向けて益々少子高齢化が深刻化し、多くの課題が山積する中、社会を支えるための福祉人材確保と地域との共生・協働が喫緊の課題となっている。その背景には、少子高齢化だけではなく地域住民同士のつながりの希薄化や家族機能の弱体化、社会的な担い手不足、過疎化等による人口減少、介護離職など、多様な要因が関連していると考えられ、法人においてもその対応が急がれる。

よって、本会は、令和2年度に法人組織の健全化及び経営基盤強化のため、法人運営に係る規程の見直しに着手した。また、人材確保に取り組むと同時にICTやIOTを導入するなど、業務の効率化と省力化に力強く取り組んだ。その一環として、多角的視点による中長期計画実現に取り組んだので、下記のとおり報告する。

目 次

社会福祉法人しらさぎ福祉会 第1期中長期計画事業報告	3
令和2年度 社会福祉法人しらさぎ福祉会 事業報告書	8
令和2年度 特別養護老人ホームしらさぎの里 事業報告書	18
令和2年度 しらさぎの里ショートステイ事業所 事業報告書	26
令和2年度 地域密着型特別養護老人ホームしらさぎの里 事業報告書	29
令和2年度 デイサービスセンターしらさぎ 事業報告書	37
令和2年度 しらさぎ在宅介護支援センター 事業報告書	43
令和2年度 姫路市大白書地域包括支援センター 事業報告書	47
令和2年度 アットホーム林田しらさぎ 事業報告書	52
その他 外部研修実績一覧 及び ボランティア活動実績	53

社会福祉法人しらさぎ福祉会 第1期中長期計画事業報告

(期間：平成30年4月～令和3年3月31日)

《経営ビジョン》

家族と暮らしているようなアットホームな施設としての誇りを持ち、地域社会に貢献し続けるための組織体制と経営基盤を築く。

1 サービス品質

1) 経営理念・方針の周知

「アットホームな施設」であることが法人・施設の真のカラーとして地域社会に浸透させます。(1年)

【評価】 「アットホームな施設づくり」が定着したことを受け、平成31年度から新しい基本理念と基本方針を掲げ、まずは職員に周知を図り、ホームページやパンフレット等により地域への浸透を図るための取組に着手した。

2) 外部評価の実施

定期的な第三者評価を受け、情報交換を手段とした取り組みを通じて魅力を発信します。(2年)

【評価】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、評価団体との打ち合わせを繰り返しはしたが、令和2年度における実施は叶わなかった。次年度において事業計画にその実現を掲げ、準備に入っている。

3) 業務手順の標準化

定期的にマニュアルの見直しと非常勤職員を含めた研修を実施します。(1年)

【評価】 非常勤職員も含め、マニュアルの周知、意見交換を経てその見直しにつながった。

4) コンプライアンス

保管義務書類の保管庫を整備し、円滑な利用環境を確保します。(1年)

【評価】 既に保管義務書類の整理を行い、専用の保管庫への収納を終え、円滑な利活用も行えている。

2 人材

1) 人材確保

適切な人員配置および配分が確保できるように抜本的な見直しを行い、多様な人材活用を実現することにより安定した人材運用につなげます。(1年)

【評価】 多様な人材による安定した人材運用については、令和2年度中に障害者対象のトライアル雇用により1名を採用し3か月のトライアル期間を終え、引き続き雇用継続が実現した。独自のスキルを活かした役割が定まり、定着化

に向けた育成を進めている。新型コロナウイルスの影響により、職員やその家族の発熱等を理由とした自宅待機者が続出し、この1年は現場に負担が強いられた。

2) 人材育成

主任・副主任を中心とした現場のまとまりを図り、業務改善努力を高めます。(1年)

【評価】 主任・副主任を中心とした会議や研修会を経て、積極的に業務改善を行った。令和2年度に導入が進んだ新しい介護支援ソフトの定着化や有効活用など、業務の効率化に大きな進展があった。

3) 経営マインドの育成

経営的視点で積極的に経営努力を行う意識を浸透させ、稼働率の向上を軌道に乗せます。(1年)

【評価】 各事業において、稼働率を意識した運営が行われたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により利用自粛や営業活動の停滞を強いられたため、意に反し実績が振るわない結果となった。しかし、各事業において、それを補うための経営努力を行い、稼働率低下を最小限に抑えることができたと考える。

4) 役員機能

法人組織を円滑稼働させることで、適正な財政管理の維持および計画的かつ戦略的な資金運用を実現します。(2年)

【評価】 事業計画と予算に基づく計画的な資金運用を心掛けることができたが、年度を通じて細かい修繕工事等が目立ち、思いの他修繕費用の積算額が大きかった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により感染対策が求められたため、衛生用品や防護用具などに負担を強いられたが、利用可能な助成金を活用することで最小限のダメージに留めることができたと考える。

5) 権利擁護

スキルアップ研修の充実化を図ることで学習と内省を促す機会を作り、権利擁護の考えを浸透させます。(1年)

【評価】 事業所ごとに権利擁護に関する学習機会を年間計画に従って実施。職員の権利擁護意識を高めることに成果はあったと考えるが、残念ながら法令遵守委員会において1名を個別指導対象者とする判断が下り、年間を通じてレポートと面接指導を計画的に実施した。

3 財務基盤

1) 事業収入の拡大

すべての事業において、稼働率93%を上回る実績を維持します。(2年)

【評価】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、利用自粛などの影響があっ

た他、新規利用者に事前の PCR 検査が求められるなど、タイムロスが生じることで円滑な受入が困難となり、稼働率維持に苦しんだ。特にデイサービスでは利用自粛や発熱等による利用見合わせ等の影響が顕著に表れ、年末に一旦回復をみるも再び下降した。

2) 積立金の計上

無駄な支出や不適切な経費の自粛を徹底し、事業収入を増やすとともに積立金を3年で1億円以上確保します。(3年)

【評価】 年間の総収入額が4億9千万となり、稼働率に比して減収は免れた。また、積立金はこれまでの蓄積分を含めて4千万を計上できており、次年度には更にもう一步の成果を求めたい。

3) 財務分析

月次決算による財務分析を行い、財務状況と方針を経営に活かします。(半年)

【評価】 月次決算からは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響が実績として顕著に反映された1年であった。各会議において、コロナ禍においてできる限りの経営努力をするという一念で意思統一を図り、令和2年度は通常ベースの収益に加え地道な収益の積算が下支えしたと分析する。

4 制度及び行政の動向

1) 介護報酬の改定

加算算定条件を徹底分析し、各事業において増収に転換します。(1年)

【評価】 本計画では平成30年時の介護報酬改定では、目標を持って機能訓練指導員など専門職人材の確保、そして新しい介護支援ソフトや ICT と IOT の導入など、増収への転換が図れたと考える。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により大きなダメージがあったことは否めない。

2) 行政からの受託事業

法人及び各事業の地域での存在価値を高め、地域ネットワークを活用して全事業で安定的運営を実現します。(1年)

【評価】 姫路市からの受託事業である地域包括支援センターや生きがい対応型デイサービス委託事業を通して、行政との信頼と連携のパイプを強固にし、制度理解と事業運営の安定化を目指した。また、兵庫県知事認定の地域サポート施設活動では、活動を通じて地域ニーズを把握し、顧客獲得手段のためとして定着化を図った。

5 地域との関係

1) 地域連携

地域との協働姿勢を強化し、信頼関係を堅実維持するとともに問題解決機能の組織

化を図ります。

【評価】 新型コロナウイルス感染症の感染対策により地域行事等の接触機会がほぼ無い中、地域各種団体、他事業所などとの地域連携強化を果たすため、各代表者との接点を作り、そのつながりを活かして全事業共通の情報網とした。

2) 地域特性の把握

自治会や民生委員、老人会、それぞれの特性を活かした情報網を確立し、事業運営に活かします。(1年)

【評価】 地域各種団体それぞれの特性を活かした連携を保ち、意見やニーズを集めるための情報網として活用した。

3) 労働市場の開拓

独自の人材確保術を実践する中、幅広い世代への関心を拡大的に広めるため、地域での福祉教育・介護のイメージアップ活動を展開します。(1年)

【評価】 毎年、中学生を対象にイメージアップ活動として福祉学習を実施。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により令和2年度は中止。一方、小学校では施設見学会が中止になったため、代替えとして福祉学習を小学校で実施し、小学生の介護・福祉への関心を高めることができた。

6 マーケット

1) 地域ニーズへの対応

更なる地域貢献を目指し、戦略的新規事業の立ち上げを実現します。(1年)

【評価】 行政各担当課との相談を経て、地域から要望があった移動支援を地域サポート施設の生活支援サービスとして実現できた。公共交通機関の利便性低下と高齢化による外出困難者の増加により利用ニーズの高まりが実感された。活動においては、地域包括支援センターや社会福祉協議会、地域関係者との連携協力体制も確立できた。

2) 競合状況

町外事業拠点への進出・事業拡大に備えた準備に着手し、計画的に事業を展開します。(長期計画 10年)

【評価】 引き続き計画性を持って様々な選択肢を視野に検討を進めていく。

7 設備・備品管理

1) エアコン室外機

安定的で機能的な空調設備を整えます。(2年)

【評価】 平成31年度に新館棟各居室にエアコン及び独立した室外機設置した。その後、安定した空調管理を続ける事が出来ている。従来からの室外機はホール

と廊下のみと連動するが、こちらも現状問題なく稼働を続けており、目的は達成できたと考える。

2) デイサービス送迎バス

機能的・経済的・効率的な送迎体制を構築するための車両を確保します。(2年)

【評価】 平成31年度までに送迎バスに代わりワンボックス車による送迎スタイルが構築、定着した。それに伴い、送迎バスは日本財団の協力により他法人に譲渡し引き継がれることが決定。令和3年4月初旬に譲渡手続きが完了した。また、老朽化により故障を繰り返すワンボックス車1台に代わり新車を購入。購入には県の新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業による感染対策に要するかかり増し経費支援金を利用し令和3年1月に手続きが完了。よって、デイサービスの送迎体制は、ワンボックス車による効率的な体制が整った。

3) 屋根の塗装

屋根の塗りかえを実施し、外観風貌の一新によるイメージアップと風水害対策への設備投資を行います。(3年)

【評価】 度重なる自然災害の脅威に備え、平成30年度に既に実施済。

以上

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人 しらさぎ福祉会

《経営ビジョン》

家族と暮らしているようなアットホームな施設としての誇りを持ち、地域社会に貢献し続けるための組織体制と経営基盤を築く。

《基本理念》

誠心誠意を尽くし その人らしさを尊重し 貢献心を強く持つ

《基本方針》

- ① わたしたちは、懇切丁寧に接し、安全で安心、安楽な生活環境をつくります。
- ② わたしたちは、尊厳を守り、個別性のある心温かい支援を行います。
- ③ わたしたちは、地域社会とのつながりを大切にし、福祉向上のために貢献します。

本年度は、第1期中長期事業計画を見直す節目の年として、持続可能な体制づくりのため運営体制の改善と経営基盤の強化、人材確保に向けた業務効率化に取り組み、更に新型コロナウイルス感染症対策徹底の中での事業運営が強く求められた。また、緊急性が高まる災害対策に対し、令和2年度は風水害対策に重点化した訓練を計画した。しかし、コロナ禍における災害対策訓練は、本来の地域合同訓練の妨げとなり、とにかく職員の風水害への理解と防災意識を高め、事業継続計画の策定への足掛かりとすることが目的とされた。設備面では、長年の課題であった空調設備の更新工事を実施し、冬季までに安定した空調管理が整った。

一方、法人が掲げる中長期計画に従い、計画的な経営基盤強化を図るため、組織力と財政面での強化に引き続き力を入れることが求められた1年であった。

1 法人経営の原則の遵守

法人は、定款第3条の規程に則り、社会福祉事業の主たる担い手として相応しい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、経営基盤を強化し、サービスの質向上及び事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めることを宣しています。

その実践として、一つ目に、組織体制を整えるため、9月に法人組織内における理事長業務を明確化するため、理事長専決規程を制定。更に12月にはこれまで理事長専決に留まっていた定款細則を改め、法人運営の仕組みや手続きについて明確化。理事長専決規程の内容を集約して盛り込み、別紙として理事長専決事項と施設長専決事項を定め、経理規程等との整合性を図りました。

二つ目に、職員処遇では、3月の第4回理事会及び第3回評議員会での決議を経て、これまで正看護師と准看護師との間で資格手当額の不合理があったため見直しを実現。人材確保がより厳しい社会となる中、職員のネットワークを活かした人材の獲得を目指すため、他法人の取り組みを参考とし、独自の職員紹介制度を導入。人員体制の強化におい

て貢献した職員に対する報奨金支給のルール作りを実現した。令和3年度からの運用によりその成果が期待される。

一方、引き続き懸案事項であるアットホーム林田しらさぎの事業活用については、担い手不足と新型コロナウイルス感染症の影響が重なり、全く見通しがつかないまま、維持経費のみが積み重なる状況にあり、現状における適正化を図ることを目的として経理規程のしらさぎの里拠点区分から削除し、その会計を法人と一体化することが法人の判断として決定された。

2 理事会・評議員会の開催

1) 理事会の開催

・第1回 令和2年6月2日

第1号議案 平成31年度事業報告(案)について

第2号議案 平成31年度計画書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認について
(監事監査報告)

第3号議案 令和2年度定時評議員会への上程議案の確認について

報告事項① 職員の入退職について

報告事項② 理事長の職務執行状況について

報告事項③ その他

・第2回 令和2年9月7日

第1号議案 経理規定の改正(案)について

第2号議案 理事長専決規程制定(案)について

報告事項① 各事業所の現況報告について

報告事項② 職員の入退職について

報告事項③ 理事長の職務執行状況について

報告事項④ その他

・第3回 令和2年12月7日

第1号議案 令和2年度しらさぎの里拠点区分第1次補正予算(案)について

第2号議案 デイサービスセンターの車輛購入について

第3号議案 定款細則の全部改正(案)について

第4号議案 令和2年度第2回評議員会への上程議案の確認について

報告事項① 令和2年度上半期決算報告について

報告事項② 令和2年度上半期監事監査報告について

報告事項③ 各事業所の現況報告について

報告事項④ 職員の入退職について

報告事項⑤ 理事長の職務執行状況について

報告事項⑥ その他

- ・第4回 令和2年3月1日
 - 第1号議案 令和2年度しらさぎの里拠点区分第2次補正予算（案）について
 - 第2号議案 経理規程の一部改正（案）について
 - 第3号議案 令和3年度事業計画（案）及び予算（案）について
 - 第4号議案 令和3年度定期昇給（案）について
 - 第5号議案 給与規程の一部改正（案）について
 - 第6号議案 報奨金規程の制定（案）について
 - 第7号議案 令和2年度第3回評議員会への上程議案の確認について
 - 報告事項① 各事業所の現況報告について
 - 報告事項② 職員の入退職について
 - 報告事項③ 理事長の職務執行状況について
 - 報告事項④ その他

2) 評議員会の開催

- ・定時評議員会 令和2年6月17日
 - 第1号議案 平成31年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認について
(監事監査報告)
 - 報告事項① 平成31年度事業報告について
 - 報告事項② 職員の入退職について
 - 報告事項③ その他
- ・第2回 令和2年12月21日
 - 第1号議案 令和2年度しらさぎの里拠点区分第1次補正予算（案）について
 - 第2号議案 定款細則の全部改正（案）について
 - 第3号議案 経理規程の改正（案）について
 - 報告事項① 令和2年度上半期決算報告について
 - 報告事項② 令和2年度上半期監事監査報告について
 - 報告事項③ 各事業所の現況報告について
 - 報告事項④ 職員の入退職について
 - 報告事項⑤ その他
- ・第3回 令和3年3月16日
 - 第1号議案 令和2年度しらさぎの里拠点区分第2次補正予算（案）について
 - 第2号議案 経理規程の一部改正（案）について
 - 第3号議案 令和3年度事業計画（案）及び予算（案）について
 - 第4号議案 令和3年度定期昇給（案）について
 - 第5号議案 給与規程の一部改正（案）について

第6号議案 報奨金規程の制定(案)について

報告事項① 各事業所の現況報告について

報告事項② 職員の入退職について

報告事項③ その他

3) 監事会の開催

・令和2年5月12日・5月14日・5月18日(世良監事・石飛監事)

令和2年度第1回理事会及び定時評議員会にて

平成31年度下半期の監事監査結果として報告

・令和2年11月10日・11月16日(世良監事・石飛監事)

令和2年度第3回理事会及び令和2年度第2回評議員会にて

令和2年度上半期監事監査結果として報告

4) 評議員選任・解任委員会の開催

・開催なし

3 事業運営

- ① 第一種社会福祉事業 特別養護老人ホームの経営
地域密着型特別養護老人ホームの経営
- ② 第二種社会福祉事業 老人短期入所事業の経営
老人デイサービス事業の経営
地域支援総合事業の設置経営(アットホーム林田しらさぎ)
- ③ 公益事業 居宅介護支援事業の経営
生きがいデイサービス事業の経営
地域包括支援センター事業の設置経営

4 本年度の重点施策

1) サービス品質

- ① 新理念と方針、そして法令遵守の考えを全職員に浸透させ、統制力を高めました。
- ② 外部評価については、評価団体との調整を進めるも新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施に至らず。実施時期を次年度に見送りました。
- ③ アットホーム林田しらさぎの会計区分変更により、経理規程を見直した。また、人材確保策である職員紹介制度の導入に伴い、新たに奨励金規程を制定。資格手当の不合理的解消のため手当を見直し、それに伴う経理規程の一部変更を行いました。
- ④ 引き続き、各職員との育成面接を経て個別の年間目標を設定、目標達成に必要な研修への参加機会を確保。令和2年度は、非常勤職員も対象に含めた人事考課を実施し、働き方改革の一環として、全職員の昇給基準を明確にすることができました。
資格取得実績は、主任職員1名が介護支援専門員資格を取得。特養の体制強化に大

きな貢献を果たしたことを受け、キャリアパス制度に基づき、令和3年4月1日付で昇格。また、これまで主任の補佐役を果たしてきた副主任を主任に昇格しました。

2) 人事管理の適正化への対応

① 兵庫県老人福祉事業協会からの補助を得て、介護福祉士実務者研修及び介護職員初任者研修の受講料補助を募集、例年通り受講するための勤務体制に備えましたが、令和2年度は受講希望者なし（受講料補助対象者なし）。しかし、昨年度に介護福祉士実務者研修を受講した職員が介護福祉士国家資格に合格を果たしました。

② 職員の所属意識と貢献心を高めるため、人事考課の目的と意義について全職員への再周知を図り、非常勤職員も含めた組織力強化を図りました。

非常勤職員に対する評価基準を明確化しました。特に、人員が不足しがちな土日の人員確保など、組織の人員確保や体制維持に貢献した非常勤職員に対し、賞与支給時及び昇給時に合わせて業績を評価、報酬に反映しました。

③ 新しい介護支援ソフトが定着し、更に ICT と IOT を活用した介護支援ソフトの機能強化、ネット環境の整備などに進展あり。

3) 財務基盤の強化

① 介護報酬改定と新型コロナウイルスによる二重の影響を受けた厳しい1年となった。各事業において利用控えだけでなく、死去による利用終了者が比較的多い傾向がみられ、稼働率と収益はやや減少気味。しかし、厳しい中にも事業所間連携を図るなど、各事業が経営努力に励んだ結果、総収入では4億9千万となり、目標である5億に迫りました。

② 昨年度に比べ、前期から修繕頻度が極端に多く、新型コロナウイルスの感染対策も含め、設備や備品の整備に大きな経費を要した。そのような中でも、事業計画と予算を意識した運用を心掛け、健全な資金運用を実践することができました。

感染対策強化が求められる中、備蓄の確保、感染対策用品の多数購入が強いられましたが、助成金の活用により負担軽減につなげることができました。

③ 法人及び各事業の宣伝効果を高め、人材確保と稼働率向上につなげることを目指し、ホームページのリニューアルに着手。セキュリティ保護強化につなげました。

年度をまたぎ、デザインやメニューの構成を進め、令和3年度上半期公開を目指します。

④ 加算取得要件を分析し検討する機会を作り、それに応じた人材確保や環境整備を計画化し、条件整備を進めました。また、次年度の介護報酬改定に備え、積極的な加算算定要件の研究分析と条件整備に着手しました。制度改革の軸となる LIFE の活用等については遅滞なく手続きに着手でき、介護支援ソフトと ICT や IOT を最大限に活かせるように、ネット環境やナースコールなど既存の設備機能の点検、調査、条件整備を進めました。

4) 地域との連携強化

- ① 兵庫県が推し進める県知事認定の地域サポート施設の一つとして、コロナ禍においても引き続き地域の安心づくりに取り組み続け、姫路市地域包括支援課、社会福祉協議会、地域包括支援センターと連携し、地域で暮らす高齢者の24時間見守りサービスを柱に、移動支援を導入し充実した生活支援に可能な範囲で対応。感染対策下においても、非接触型スタイルでの見守りを続けました。一方、ふれあいサロンやミニデイサービス、介護技術講習会の開催などの集合型活動は自粛を余儀なくされました。
- ② 毎年開催する、林田中学校1年生を対象とした福祉授業は、感染拡大の真っ只中において実施機会を見出せず。一方、林田小学校では実現困難な施設見学に代わり校内での福祉学習を実施し、介護や福祉への関心を高めることができた。

5) 設備備品管理

- ① 非常時に備えた自家発電設備については、法人独自の計画に基づき整備をすることとなったが、定期点検によりメンテナンスを続けている限りでは性能に問題がないことが報告された。よって、設備更新は緊急性を要しないと判断しました。
- ② 耐震強化工事を計画的に実現するため、施設整備費用の積立を全体(特養とデイ)で4千万を計上し、他の計画の実現と合わせて準備を進めていく。
- ③ 新館下駐車場の天板破損部分の劣化が進む中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により着手に至らず。引き続き業者に点検と見積を要請。令和3年度に原因究明したうえで修繕に移ることを計画にあげました。

6) 災害時に備えた体制の整備

- ① 防災センター等を活用した災害体験教育については、感染対策のため設備利用制限下により実現せず。令和3年度以降、感染拡大が収束すれば早々に着手に移ります。
- ② 年2回の火災避難訓練に加えて、地域合同で行う災害避難訓練は感染対策のため実現しなかったが、6月に連合自治会や消防団との間で災害対策マニュアルの連携について相談を持ち緊急連絡体制を整えた。体験型訓練を自粛せざるを得ないため、姫路市危機管理室と相談したうえで「災害対策机上訓練」として災害発生時の対応についてシミュレーションを実施した。また、訓練では事業継続計画の重要性を共有し、事業継続計画策定への参画を促し、職員の防災意識と対応力を更に高めました。
- ③ 福祉避難所運営マニュアルを職員に周知し実用化を目指した訓練を予定していたが新型コロナウイルス感染症への対応に追われる中、実現せず。1月に姫路市保健福祉政策課との間で福祉避難所の受入体制に関する合同訓練が2月17日実施予定で計画に至ったが、同じく感染拡大の影響を受け中止。改めて、令和3年度に姫路市との相談を経てマニュアルの周知を図り、機能性向上を目指します。

7) その他

- ① 特定建築物等防火設備定期点検実施(令和3年3月12日)(株)加藤建築事務所 特に指摘なし

- ② 防火設備定期検査（令和2年10月21日）三和シャッター工業
防火シャッター及び防火扉について異常及び指摘なし
- ③ 消防用設備等保守点検実施（令和2年6月18日、同年10月21日）安立防災(株)
- i 消火器（強化液6型1本）製造より10年以上経過の為容器の耐圧試験が必要。
以上の結果を踏まえて、消火器を交換済（令和2年6月18日）。
 - ii 消火器（粉末ABC10型2010年製1本）12月末までに交換が必要。
以上の結果を踏まえて、消火器を交換予約済み（令和3年10月）。
- ④ 消防立入検査実施（令和2年9月22日）姫路西消防署
同日午前10時50分発生火災警報器誤作動に対し非火災報調査報告を求める。
以上の結果を踏まえて同日中に調査を実施。
旧型感知器の埃による誤作動と判明。安立防災に依頼し12月1日交換完了。
姫路市西消防署へ非火災報調査報告書を提出済み（令和2年9月22日）
- ⑤ エレベーター定期点検（令和2年4月19日、同年9月7日）フジテック(株)
駆動装置等の耐震対策、主索又は鎖及び調速機ロープの取付部、頂部綱車、ガイドレール及びレールブラケット、釣合おもりの各部。以上の検査項目について、
建築基準法の改正に伴い耐震関係は設置時期で既存不適格を判断。以上の結果に
ついて、次回工事に合わせ、現行法に対応した対策を実施する。
- ⑥ 自家用電気工作物点検（自家発電設備）日本テクノ(株)
年次：なし
月次：令和2年5/12、7/13、9/9、11/9、令和3年1/15、3/9（異常なし）
- ⑦ 産業廃棄物立入検査（5年1回）姫路市
令和2年度は対象外
- ⑧ 簡易専用水道定期検査（令和2年2月19日）姫路市医師会
指摘事項及び助言事項ともに特に無し
- ⑨ 漏水調査（令和2年11月27日）(株)アクアリサーチ
- i 漏水量測定調査の結果
 - ・直圧管路系統：健全であると判明。
 - ・ポンプ加圧系統：漏水は加圧ポンプ系統で発生していることを確認。
 - ii 各種音聴調査の結果
 - ・調理室北側エコ給湯器のオーバーフロー漏水を発見。
以上の結果について、即修理依頼（12月8日修理）ムツミ商事
再修理依頼（12月14日修理）日立
再々修理依頼（12月22日修理）ムツミ商事、平錦建設
- ⑩ 新型コロナウイルス感染症対策における取組
- i 令和2年度における新型コロナウイルス感染症の発症者 なし
 - ii 令和2年度における新型コロナウイルス感染の疑いによる自宅待機者 15名

内訳：特養職員 8 名、デイサービス職員 7 名（合計 15 名）

主な理由：本人の風邪症状又は発熱（5）、家族の発熱（5）、家族が濃厚接触者（5）

【新型コロナウイルス感染症対策としての取り組み経過について】

- R 2. 4 月 9 日 家族会総会及び献花式について延期、その他行事の規模縮小を判断
4 月 17 日 姫路市の通達を受け地域包括支援センター職員の出勤体制を検討
4 月 20 日 新型コロナウイルス感染症対策について妊産婦の安全対策に着手
4 月 20 日 多床室個室化補助事業について姫路市と相談
4 月 24 日 感染対策会議（新型コロナウイルス対策の課題分析及び対策検討）
5 月 4 日 新型コロナ対策として実例を基に対処フローチャート作成、周知
5 月 8 日 衛生・防護用品の備蓄チェック（姫路市の調査に応じ回答）以降随時
5 月 11 日 感染症対策会議（発生時の対応を具体化、必要物品の特定、手配）
5 月 13 日 嘱託医との相談（新型コロナ発生時の対応、医療連携体制など）
5 月 14 日 感染症対策としての陰圧装置の調査及び検討
5 月 22 日 感染対策会議（新型コロナ発生時に備え体制及び方法、手順の検討）
5 月 27 日 多床室個室化補助事業について姫路市と相談
6 月 3 日 感染対策会議（オンライン面会及び新型コロナ発生時の対応を検討）
6 月 9 日 姫路市へ新型コロナウイルス感染拡大防止対策助成金受給申請
6 月 10 日 健康診断における感染症対策について姫路市医師会と相談
6 月 15 日 入居者家族へオンライン面会開始の案内発送（オンライン面会開始）
6 月 19 日 姫路市と地域包括支援センター間においてオンライン会議を導入
6 月 25 日 感染対策会議（新型コロナウイルス・ステップ 2 対策の検討）
7 月 1 日 姫路市へ新型コロナウイルス感染拡大防止対策補助金報告書提出
7 月 13 日 姫路市医師会による感染症対策が取られた職員健康診断の実施
7 月 21 日 姫路市医師会による感染症対策が取られた入居者健康診断の実施
7 月 22 日 新型コロナウイルス対策と年間スケジュールについて検討
8 月 11 日 嘱託医との相談（退院者及び新規入所者受入時の PCR 検査要否）
8 月 19 日 感染症対策として規模縮小により献花式の開催（施設内行事）
8 月 25 日 感染対策会議（新型コロナウイルス対策と介護慰労金について検討）
8 月 31 日 中小企業事業継続応援金申請（姫路市）
感染対策会議（新型コロナウイルス感染症対策動画学習会を実施）
9 月 2 日 ※感染予防、基礎学習、防護用具の着脱訓練、COCOA の説明等
9 月 9 日 嘱託医に対し新型コロナウイルス感染症対策方針の説明（共有）
9 月 11 日 災害対策机上訓練の実施（感染症対策のためシミュレーション訓練）
9 月 22 日 感染対策会議（新しい生活様式による体制づくりについて検討）
9 月 29 日 嘱託医との相談（新型コロナウイルスワクチン接種について）
9 月 30 日 新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金申請（兵庫県）

- 10月 5日 感染対策会議（クラスター発生施設の例から学ぶ動画学習会）
- 10月 7日 嘱託医との相談（職員に発症者が出た場合の対応手順について）
- 11月 4日 嘱託医との相談（感染症対策と新規入居者の PCR 検査について）
- 11月 6日 姫路市の新規入所者に係る PCR 検査事業説明会参加
- 11月 9日 介護慰労金への対応（職員の口座へ振込完了）
- 11月13日 嘱託医との相談（新規入所者 PCR 検査への対応について）
- 11月16日 新規入所者 PCR 検査事業スタート
- 11月24日 感染対策会議（年末年始と感染拡大期における感染症対策を検討）
- 12月 7日 新型コロナウイルス対策シミュレーション実施（ゾーニングの検討）
- 12月10日 嘱託医との相談（感染拡大期における感染者発生時に対応について）
- 12月14日 年末年始の面会制限及び面会対応について検討
- 12月29日 嘱託医との相談（感染対策に関する県の通達文について意見交換）
- R3. 1月12日 感染対策会議（緊急事態宣言下での体制づくりについて）
- 1月15日 入居者家族宛近況報告発送
- 1月18日 感染対策ミーティング（対応状況について情報交換及び意見交換）
- 1月20日 嘱託医との相談（緊急事態宣言後の通達内容、初動体制について）
- 1月25日 姫路市合同 福祉避難所開設・運営訓練（2/17）について検討
嘱託医との相談
- 1月26日 （新規入所者 PCR 検査条件変更及び退院基準、ワクチン接種について）
- 1月29日 姫路市との調整（福祉避難所開設・運営訓練について）
- 2月 3日 姫路市との調整（福祉避難所開設・運営訓練の中止について）
- 2月 3日 嘱託医との相談（ワクチン接種スケジュール、PCR 検査について）
- 2月15日 入居者家族宛近況報告発送
- 2月26日 感染対策会議（新型コロナウイルスワクチン接種について動画学習）
- 3月 2日 感染対策会議（ワクチン接種について動画学習）
- 3月 3日 嘱託医との相談（ワクチン接種説明文及び意向確認開始について）
- 3月 5日 入所者家族及び職員へのワクチン接種意向調査開始
- 3月 8日 姫路市へのワクチン接種者リスト提出
- 3月16日 嘱託医との相談（ワクチン接種に向けた手続き方法について）
- 3月26日 新型コロナウイルス対策と次年度年間スケジュールについて検討
- 3月29日 姫路市の新規入所者 PCR 検査説明会に参加

以上

令和2年度

事業報告書

特別養護老人ホームしらさぎの里

年間稼働率は、97.4%で前年度と比較し-1.7%の減少となりました。令和2年度は平均年齢が90歳と高齢であり約4割が95歳以上であり、看取りケア対象者が12名、医療機関入院中に4名が亡くなられ計17名の退所がありました。入所に関しては新型コロナウイルスにより事前面談から入所に至る時間を感染対策に要したため、スムーズな入所が実現できず稼働率の低下を招いたと考えます。

1 根拠に基づいた介護の実践

1) 根拠に基づいた介護の実践について

主任会議やフロア一会議、施設内研修会において、適正な水分摂取・歩行に対するケア・普通の食事を摂取できた場合に、身体にどのような影響を及ぼすのかを学び、部門間で連携を図りながら理論に基づいたケア・尊厳を守るケアの提供に努めました。また、適正な水分ケアを勧め、可能な限り自然な排便に繋がる様に医師との連携にも努めました。

特養・地域密着型特養共同の施設内研修

月	研修内容	担当職員
4月 21. 23 日	認知症ケア	介護職員
5月 13. 15 日	チームケアの重要性	介護係長
5月 25. 28 日	ターミナルケア	介護職員
6月 5. 12 日	口腔ケア（外部講師）	歯科医師
6月 10. 13 日	高齢者虐待	介護職員
6月 23 日	食中毒の基礎知識と予防	栄養室係長
7月 14. 17 日	吸引・胃瘻介助	看護主任
7月 20. 30 日	高齢者に多い疾病（褥瘡含む）	介護職員
8月 21. 24 日	身体拘束適正化	介護主任
9月 26. 30 日	緊急時の対応（骨折・止血）	介護主任
11月 16. 24 日	プライバシー保護、個人情報保護	介護副主任
11月 20. 30 日	感染症予防・対策	介護職員
12月 17. 22 日	褥瘡のメカニズム	介護職員
1月 15. 27 日	介護事故の予防・緊急時対応	介護職員
2月 18. 26 日	高齢者施設における事故発生の原因と予防	介護職員
3月 16. 24 日	高齢者の尊厳を守るケア（身体拘束含む）	介護職員

実習受入について

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、例年であれば実施する龍野北高校介護実習、兵庫県立大学栄養実習、トライやるウィークの受入を中止しました。

2 入居者の尊厳を守る基本的介護の実施について

高齢者虐待・身体拘束の防止に向けた取り組みの実施

入居者に安心して自分らしく生活を送って頂くために、主任会議をはじめ各フロアー会議、施設内研修において、高齢者虐待と身体拘束に関する話し合いや事例検討会を行い、認知症や虐待の理解及び不適切なケアについても話し合い、職員への気づきを促し改善していけるように努めました。

3 サービスの質の向上について

1) 根拠に基づいた介護（水分摂取、歩行と排泄、常食化）を取り入れたアセスメントと見直しを継続して行い、一日に必要な水分摂取量を目標値に設定し対応しました。

心身状況の把握に努め、変化があった事に対しご家族へお伝えし、ご家族の意向の確認とケア内容の提案を行い、ご家族とも一体となった施設サービス計画書の作成に努めました。ご家族へのサービス担当者会議出席について、令和2年度はすべてお断りさせていただきました。

サービス担当者会議開催件数（広域型）

項目 \ 年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度
サービス担当者会議の件数	144件	132件	132件
ご家族参加の総件数	78件	46件	0件

※新型コロナウイルス感染症予防のため、面会制限（指定した部屋でのオンラインのみ）とし、意向を伺い作成しています。

2) 担当介護職員より、毎月の近況報告（写真付き手紙）をご家族宛に送付し状態の共有を図りました。また、状態変化時にはご家族へ電話連絡を随時行い、施設の体制を再度説明したうえで、対応・ケア方針の検討に努めました。（前年度1月よりは隔週でご家族へ電話にて近況を報告しています。）

① 介護の取組み

i 食事：

椅子やテーブルの高さ、自助具を調整し、食事を摂るための座位や姿勢を確認し、入居者ご本人に食べて頂けるよう環境整備に努めました。また、水分の種類や摂取の方法を検討し、24時間摂取できる環境を作り、脱水から起こる認知レベルの低下を予防し、改善に繋がる方もありました。

ii 排泄：

入居者一人ひとりに合わせた排泄方法を排泄委員会（尿測、排尿チャート）・

フロアー会議で検討し、実施しました。

月日\種別	パット交換者	トイレ誘導者	自立
令和2年4月	17名	42名	1名
令和3年3月	13名	38名	9名

iii 入浴：

入居者の身体状況に応じた入浴方法を、入浴委員会・フロアー会議で検討し、各入居者に合った方法で入浴を実施しました。

月日\種別	臥床特殊浴	座位特殊浴	個浴
令和2年4月	12名	43名	5名
令和3年3月	8名	49名	3名

② 看護室の取組み

- i 入居者の日々の健康管理に努め、発熱時には温度板を活用し、その統計と初期の体調変化を見極め 嘱託医・協力医療機関と連携し、早期対応に努めました。医師の往診時には、入居者の状態を報告し 医師の診療補助に努めました。

嘱託医：毎週 20～30 名程度の診察

心療内科医師：対象者 24 名（前年度 26 名）

歯科往診：対象者 59 名（津田歯科：41 名、おかだ歯科：18 名）

嘱託医への受診件数：90 件（前年度 26 件）

嘱託医以外の協力医療機関等への受診状況		
平成 30 年度受診件数	平成 31 年度受診件数	令和 2 年度受診件数
276 件	160 件	102 件

協力医療機関等への入院状況		
平成 30 年度入院者数	平成 31 年度入院者数	令和 2 年度入院者数
22 名	12 名	11 名

- ii 入居者・職員ともに年 1 回（夜勤者は年 2 回）の健康診断を実施（介護職は腰痛検査も実施）し、嘱託医による健康相談を行いました。

- iii ターミナルケアの実施：ターミナルケア開始決定については、ご家族に医師の説明・施設での看取り介護についての説明を聴いて頂き、細かく意向を確認し、その人らしく最期の時を迎えて頂けるような支援に努めました。また、その内容の記録を作成し、職員間での情報の共有を図りました。

ターミナルケア実施者

項目 \ 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
ターミナルケア実施者数	11 名	12 名	16 名
永眠者数	4 名	5 名	12 名

入居者退所内訳

医療機関移行	医療機関死亡	看取りケア	施設で死亡	密着型移行
4名	1名	12名	1名	1名

③ 栄養室の取組み

i 給食実施状況

- ・食事形態について

平成30年度・31年度・令和2年度の3年間の比較をグラフにしました。

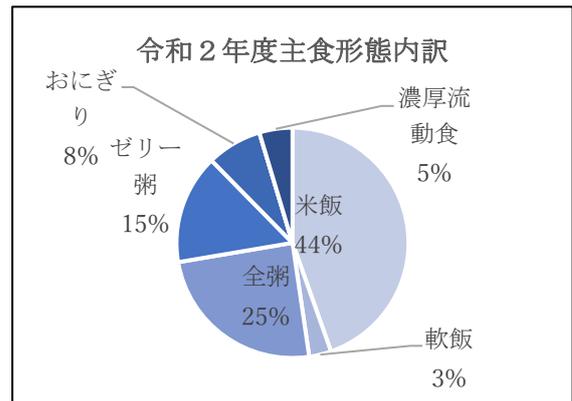
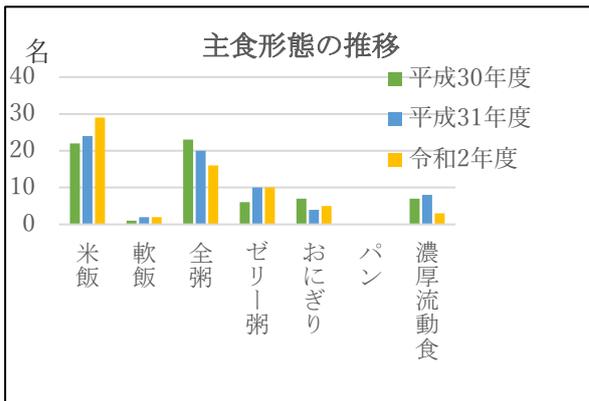
・食事形態3年間比較グラフ

<主食> 令和3年3月31日現在

	米飯	軟飯	全粥	ゼリー粥	おにぎり	パン	濃厚流動食
平成30年度	22	1	23	6	7	0	7
平成31年度	24	2	20	10	4	0	8
令和2年度	29	2	16	10	5	0	5

(名)

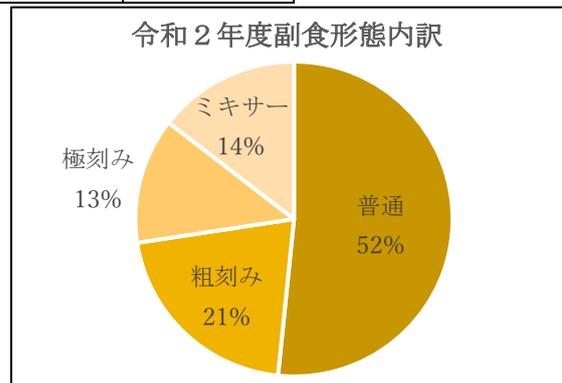
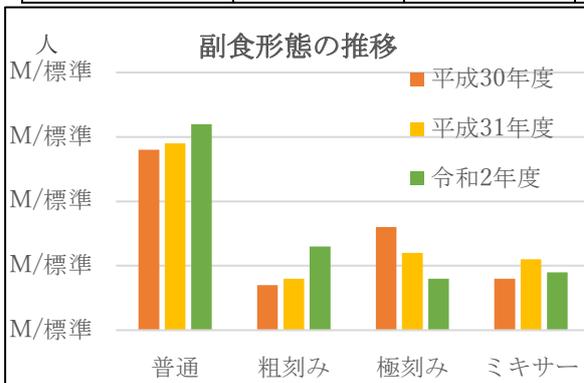
※濃厚流動食内訳：胃ろう2名、経口摂取3名



<副食> 令和3年3月31日現在

	普通	粗刻み	極刻み	ミキサー
平成30年度	28	7	16	8
平成31年度	29	8	12	11
令和2年度	32	13	8	9

(名)



	エネルギー	たんぱく質	脂質	炭水化物	カルシウム	鉄	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC	食塩相当量
	kcal	g	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg	g
施設基準量	1500	60.0	36.0	234.0	630	7.0	800	1.00	1.20	100	7.5
H31年度平均	1591	68.5	40.6	231.9	711	8.3	779	0.89	1.25	99	8.1

iii 栄養ケア計画について

特別養護老人ホームしらさぎの里では栄養ケアマネジメント体制を整えています。特養の入所者一人ひとりの個性や食事に対する希望にできる限り応じ、体重管理及び疾病予防、食事療法そして生活の一部としての栄養に関するケア計画を、嘱託医を含め各部署と連携し実施しています。またサービス担当者会議に栄養士も参加し、栄養ケア計画を施設サービス計画書と連動させ、より細かなケアとサービスを提供できるよう多職種で検討しています。

iv 経管栄養について

経管栄養（胃ろう・鼻腔）にて毎日の栄養を摂取される入居者の割合は全体の約4%。各個人の状態に応じた濃厚流動食の選択や適正カロリーの摂取、また逆流や嘔吐の予防に努めています。嘱託医、看護師と密に連携し、濃厚流動食の種類を充実させることで、各個人に最も適した濃厚流動食で対応できるようにしています。これにより入居者の体調を良好に保ち栄養状態が改善され、また注入時の負担が軽減できるなど良好な結果を得ています。

v 療養食について

特養入居者、ショートステイ利用者には様々な疾病を抱えておられる方も少なくありません。特に食事療法が重要となる病気をお持ちの方に対して嘱託医を始め看護師や介護職員と連携を取って疾病に対する療養食を提供しており、ショートステイ利用者に関しても療養食加算を算定できる体制を整えています。「生活の場であるしらさぎの里」であることから、ご本人の意思を尊重し満足度も考慮しつつ疾病に対応した療養食を提供できるよう努めています。

<令和3年3月31日現在の療養食の種類と提供人数>

	糖尿食	心臓病食	腎臓病食	貧血食	(名)
特養	6	3	0	0	
ショートステイ	2	3	0	0	

特養施設行事・余暇活動実施状況

月	施設行事内容	フロア行事内容
4月	・花見	・お誕生会
5月	(全体行事を中止)	・お誕生会・カラオケ大会
6月	・こいのぼり鑑賞(入居者で作製)	・季節の貼り絵製作・お誕生会
7月	・七夕	・カステラ作り・お誕生会
8月	・そうめん流し	・花火大会、玉入れ大会・お誕生会
9月	・敬老会・秋祭り	・お誕生会
10月	・運動会	・ハロウィン・お誕生会
11月	・焼き芋	・季節の貼り絵製作・お誕生会
12月	・クリスマス会	・お誕生会
1月	・初詣・書初め	・絵馬書き・お誕生会
2月	・節分・恵方巻き	・お誕生会
3月	・ひな祭り	・お誕生会

4 地域との連携の強化について

しらさぎふれあいサロン、介護技術講習会、施設見学については新型コロナウイルス感染症対策として中止させていただきました。

地域サポート施設として、令和2年度は契約者9名の見守り事業を実施。同様に感染症対策のため生活援助は中止し、定期的な安否確認及び緊急時の対応を行いました。

L S A 契約者状況

平成30年度	平成31年度	令和2年度
5名	7名	9名

5 施設運営の安定と経費の適切な管理

1) 健康サポート(状態把握・対応)について

入居者の小さな様子の変化を捉え、嘱託医・各部署間での連携を密にとり状況に応じた対応(受診・食事形態変更・観察)を行いました。入院されている方の把握を細かく行い、入院期間を把握しましたが、新型コロナウイルス感染症により特養空床のスムーズな有効活用が行えませんでした。(空床率1.6%:82床で計算)

入居者の状態変化に応じて、介護度区分の適正な見直しと申請を行いました。

2) 経費削減について

主任会議にて光熱水費の推移を共有し、常に改善点を抽出し経費削減に努めました。

6 危機管理について

1) 介護事故及び感染症防止に関わる安全性の確立について

- ① 主任会議において事故検討委員会を行い、各フロアー会議においては危険予測・ヒヤリハットを活用し小さな打撲・すり傷に至るまでの対策を検討し継続して実施しましたが、軽微な傷や皮下出血の事故が多くなりました。また、入居者自身が、皮膚を掻かれることで傷や内出血に至る事や、家族による外出・外泊をされる前・後のボディチェックを行い 身体状況を確認した結果、変化があればご家族に随時伝えました。

介護事故件数対比表

平成 30 年度	皮下出血	95 件	創傷	62 件	転倒転落	31 件
平成 31 年度	皮下出血	53 件	創傷	47 件	転倒転落	27 件
令和 2 年度	創傷	44 件	皮下出血	38 件	転倒転落	32 件

平成 30 年度総件数 242 件 平成 31 年度総件数 145 件 令和 2 年度総件数 121 件

ヒヤリハット件数対比表

平成 30 年度	転倒転落	647 件	トラブル	106 件	喉つめ	97 件
平成 31 年度	転倒転落	362 件	喉つめ	53 件	皮下出血	47 件
令和 2 年度	転倒転落	190 件	喉つめ	32 件	皮下出血	22 件

平成 30 年 総件数 1218 件 平成 31 年度 総件数 737 件 令和 2 年度総件数 354 件

- ② 新型コロナウイルス感染症及び季節性感染症について、毎月の感染症対策委員会にて感染症の動向を確認し、事前の予防・対策を図り、発症した方はおられませんでした。

年度 \ 診断名	インフルエンザ A 型	インフルエンザ B 型	疥癬
平成 30 年度	6 名	0 名	0 名
平成 31 年度	1 名	0 名	0 名
令和 2 年度	0 名	0 名	0 名

※嘱託医と連携し、対象者：19 名の抗原検査（PCR 検査）を実施。全員陰性でした。

※新型コロナウイルス感染症対応のため、直接面会・外出泊の中止、必要物品の適正な使用、不要不急の外出自粛を職員に徹底して行いました。

2) 苦情に関して

入居者・家族への細かなコミュニケーションや連絡・近況報告（写真付き手紙）を適切に行い施設での状況をお伝えし、ご家族の意向も踏まえた対応・ケアの実施に繋がりました。また、2ヶ月に1度、苦情解決委員会を開催し、第三者苦情委員に参加頂き、地域の介護相談についても即対応しました。

苦情件数対比表

平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
0 件	1 件	0 件

3) 危機管理について

下記 日程において、消防避難訓練を実施し、非常食の食数の見直しも行き 5 日分を常備しています。

特養・地域密着型特養共同の防災避難訓練実施状況

実施日	訓練内容	対象者
令和 2 年 5 月 18 日	消火、通報および避難等を連帯して行う消防機関への通報訓練（ホットライン）ホーム内への通報連絡訓練等（夜間想定）	特養職員、地域住民
令和 2 年 9 月 11 日	情報伝達訓練、避難誘導訓練 防災講習会、通報および避難等を連帯して行う。（地震災害）	全職員、地域住民
令和 2 年 10 月 21 日	消火、通報および避難等を連帯して行う消防機関への通報訓練（ホットライン）ホーム内への通報連絡訓練等（日中想定）	特養職員、地域住民

以上

令和2年度

事業報告書

しらさぎの里ショートステイ事業所

令和2年度の年間稼働率は、103%で前年度に比べ+4.0%となっています。4月から11月にかけて長期利用者の体調不良や入院が多く、新型コロナウイルスによりキャンセルされる方も多く見られました。また、緊急事態宣言が2度発出されたこともあり、積極的な新規受け入れによる空床利用ができず、稼働率の向上に繋がらなかったと考えます。

1 ケアプランに沿ったサービス提供について

新規利用時はもとより、退院時や状態変化時にもケアマネージャーからの情報提供を元に事前訪問を実施することにより、状況に応じたケアの提供とケアプランの作成に努め、利用時毎に自宅での様子を伺い、各引継ぎ時に状態変化を職員に伝達し状態の変化に即応できるように努めました。また、“すこやかメモ”に利用中の様子を記載し、退所時にご家族にお伝えし状態の共有に努めました。

2 在宅生活継続に向けてのケアの構築（新型コロナウイルス感染対策を行い実施）

在宅生活を念頭に、移動時など自宅での生活状況と同じ内容を想定し、状況に応じて車いすと歩行器の併用を行いました。また、食器洗い・洗濯物たたみ・台拭き・掃き掃除など日常的な役割を持つことによる心身機能の維持・向上と介護負担の軽減・在宅生活の継続に繋がるように努めました。

3 利用者、家族との信頼関係の確立について

- 1) サービスの利用初めや契約から時間が経過している方に関しても、ご利用に関して必要な事項があれば、再度丁寧に説明したうえで納得してご利用頂けるよう努めました。
- 2) ショートステイの入所・退所時には物品チェックを行い忘れ物が無いように努め、忘れ物も減少しています。（令和2年度は2件）

苦情件数対比表

平成30年度	平成31年度	令和2年度
0件	0件	1件

苦情に関する内容は、服薬管理に問題があり入院に至る案件がありました。ご家族に謝罪と原因、今後の対応をしっかりと伝えし、ご納得の上ご利用再開となっています。

- 3) 利用中の細かな状態の変化であってもご家族に連絡し意向を確認しながら対応を行いました。体調不良時には、ご家族に早目の連絡と状況の説明を行い 受診を依頼しております。

介護事故件数表

令和2年度	転倒転落	27件	創傷	11件	皮下出血	6件
-------	------	-----	----	-----	------	----

令和2年度総件数 45件

ヒヤリハット件数表

令和2年度	転倒転落	55件	紛失	10件	トラブル	9件
-------	------	-----	----	-----	------	----

令和2年度総件数 133件

4) 生きがいづくり、楽しみづくりについて（新型コロナウイルス感染対策を行い実施）

- ① 個室を利用していただき、過ごしやすい環境を提供するとともに状況に応じて居室内で行って頂けるようにしております。
- ② ショートステイの利用が多くなられている方や利用初めで少し不安感を持たれている方には、感染対策を行ったうえで親しいデイサービス利用者との面会やご家族からお手紙を書いていただくなど、不安感の軽減や関係性を保てるように支援を行いました。
- ③ また、施設内での生活援助、レクリエーションだけでなく「ショートステイに行って楽しかった。」と思われる様に、利用者の趣味・特技を活かし、年間行事等についてご利用時に合わせて希望を伺い実施に繋げました。

5) 食事について

利用者個々の嗜好に基づき食事を提供し、食欲の減退に繋がらないように対応しました。また、療養食が必要な方に対し、サービス担当者会議により療養食の要否を検討し、嘱託医・各部門との連携に基づき提供を行いました。また、食事形態の変更が必要であれば利用者・ご家族の意向を確認のうえ、状態に応じた食事形態に変更を実施しました。

4 短期入所事業の安定と居宅介護支援事業所との連携強化

- 1) 4月から9月にかけて新型コロナウイルス感染症対策として、新規利用者の積極的な受入れを中止しています。10月以降はコロナ禍において体調が不安定な方や医療的ニーズが増加する中、安心・納得して利用頂く為に、居宅介護支援事業所との連携を密に行い、ご家族にも感染症対策の内容を説明し、自宅での生活状況や利用前の検温に協力いただき、納得されたうえでのご利用に繋げました。また、ショートステイの空き状況を合わせてお知らせすることにより、ご利用に繋がっています。急なサービス利用にも対応できるように、特養入居者の入院時の空床を詳細に把握し、緊急なニーズにも可能な限り対応できるように努めました。
- 2) ご利用中の些細な変化であっても担当のケアマネージャーに電話にて連絡し、月に1度ご利用時の情報提供を行い綿密な連携に努め、担当ケアマネージャーとの信頼関係の構築に努めました。
- 3) 感染症対策として利用前のご自宅での様子（体調及び検温）や入所時に玄関での検

温、長期利用の方は姫路市が行う新規入居者PCR検査事業を活用し、施設内に持ち込まない対策を行いました。

以上

令和2年度

事業報告書

地域密着型特別養護老人ホームしらさぎの里

令和2年度の年間稼働率は、99.0%と前年度に比べ-0.8%の減少となりました。5月から7月にかけて入院者（骨折）がありました。その他は入居者個々に応じた水分ケアや健康管理を実施する事と、医療機関との連携を的確に行った事による体調の安定が図れ、稼働率の安定に繋がったと思われまます。

1 入居者の意思・人格の尊重とサービスの質の向上

地域密着型単体の委員会（食事・排泄・入浴）・フロアー会議・サービス担当者会議において、入居者の意思を尊重し、入居者の有する能力に応じたケアの検討と自立支援に努め、自宅で行ってきた生活の継続と役割を持った生活を送れるように努めました。

1) サービスの質の向上について

① 食事に関して

食事委員会において、入居者の時々の状態に応じた食事時の姿勢・食事形態を話し合い、咀嚼・嚥下状態及び介助を要する部分の検討を行い、普通の物を食べられる喜びを実感して頂くためにも常食化に努めました。ご家族からの希望があり、歯科医師と協働してお一人隔週に1回、菓子パンを提供しています。（通常：ミキサー食）

② 排泄に関して

排泄委員会において入居者個々の身体状況・認知症の状況に応じた介助の方法を検討しケアの提供を行いました。

月日\種別	パット交換者	トイレ誘導者
令和2年4月	2名	8名
令和3年3月	2名	8名

③ 入浴に関して

入居者個々の希望・身体状況に応じて、入浴委員会で話し合い、入居者に合った入浴方法を検討し、入浴して頂いております。

月日\種別	個浴	リフト浴	特殊浴
令和2年4月	1名	9名	0名
令和3年3月	1名	8名	1名

④ 特養（広域）と共同し利用者及び家族の思いに添った終末期の看取り介護の実施に努めました。 令和2年度ターミルケア実施者：1名（永眠：1名）

- ⑤ 施設行事・フロアー行事に参加頂き、生きがい、目標作りに繋がるような支援に努めました。

フロアー行事実施記録

日 程	行事内容	日 程	行事内容
4月22日	映画観賞会	10月13日	お誕生会
4月30日	お誕生会	11月19日	秋の芸術 習字
5月19日	お誕生会	12月6日	お誕生会
5月28日	お茶会	12月24日	クリスマス会
6月29日	紫陽花観賞（リモート）	1月19日	お誕生会
7月10日	七夕	2月2日	節分
8月6日	ビアガーデン	2月6日	お誕生会
9月25日	敬老会	3月19日	梅見（リモート）
10月13日	運動会		

- 2) 高齢者虐待の防止の観点からフロアー会議において、高齢者虐待に関する事例検討・良い対応・不適切な対応・声掛けの方法と、入居者への日頃の認知症状への対応方法について話し合い、その中で最善のケア方法の統一を行うことにより、認知症ケアに対する理念の共有化と身体拘束・高齢者虐待に関する意識付けを行いました。

また、フロアー会議において認知症、高齢者虐待に関する研修会を実施しました。

- 3) 入居者個々に合った食事提供・栄養ケアの実施

入居者個々に美味しく適切な食事提供を行うため、部門間で連携を図り、身体状況や喫食状況などを常に把握し、低栄養状態の予防・改善、認知症進行の防止に努めました。

- ① 炊飯や食事の盛り付けはユニットで行いより家庭の雰囲気作りに心掛けました。

また、入居者の食事摂取状況を把握し 個別対応の食事提供に努め、その日の状況に応じて食事形態を微調整し、安全に食事を食べて頂けるように努めました。

- ② 低栄養や褥瘡リスクの高いまたは褥瘡が発生している入居者に対し、看護師・栄養士と連携し、速やかな栄養改善計画を立て適切な栄養管理を行いました。

- ③ 季節の食材を取り入れた月1回の昼食お楽しみバイキング（感染対策として厨房職員が小分けにして提供）、ユニット内での入居者との家庭的で楽しみのある食事作りやおやつ作りに努めました。

- 4) 運営推進会議を行い、地域の自治会、老人会、民生委員、地域包括支援センターに出席いただき、意見を伺いより良い施設の構築に努めました。

2 ユニット型の特性を活かしたケアの構築

- 1) 入居者の要望に耳を傾け 入居者が自分らしく生活を送れ、在宅生活時から現在の状況まで把握できるように、入居者の24時間シート（アセスメント）を活用し、月1回のフロアー会議により内容の検証と共有を行いました。

また、日常的な他部門との連携をしっかりと図ることにより情報を共有し 他の専門職の意図を理解し共通理解のもと援助を行えるように努めました。

3 施設運営の安定と経費の適切な管理

1) 健康サポート（状態把握・対応）について

根拠に基づいた介護（水・歩行と排泄）を取り入れ入居者の小さな様子の変化を捉え、嘱託医・各部署間での連携を密にとりました。（入院者：2名）

医療機関と連携し、入院されている方の常態把握を細かく行い、入院期間を把握することにより空床の有効活用に努めました。（令和2年度 受診件数：19件 入院者：2名 延人数：34名）

4 家族・地域との関係の強化について

1) 入居者・家族・職員が三位一体となった関係を構築し、明るく家庭的な環境をつくり、家庭との結び付きを重視した生活を提供するために、入居者の身体状況・体調変化時にはご家族への状況連絡を行い、月2回以上ご家族への近況報告を行いました。面会については制限がある中オンライン面会を行いました。ご家族へのサービス担当者会議出席について、令和2年度はすべてお断りさせていただきました。

サービス担当者会議開催件数（ユニット型）

項目 \ 年度	平成31年度	令和2年度
サービス担当者会議の件数	22件	19件
ご家族参加の総件数	14件	0件

※新型コロナウイルス感染症予防のため、面会制限（指定した部屋でのオンラインのみ）とし、意向を伺い作成しています。

2) 四季や生きがいを感じて頂くために、特養・地域密着型特養の合同施設行事にも参加していただきました。

5 危機管理について

1) 介護事故及び感染症防止に関わる安全性の確立について

① フロアー会議において、危険予測（ヒヤリハットの活用）と小さな打撲・すり傷に至るまでの対策を検討し継続して実施した結果、介護事故の減少に繋がりました。また、入居者自身が、皮膚を掻かれて傷や内出血を確認し、変化があればご家族に随時伝えました。

介護事故件数対比表

平成 30 年度	皮下出血	54 件	打撲	16 件	創傷	13 件
平成 31 年度	皮下出血	21 件	打撲	12 件	創傷	6 件
令和 2 年度	皮下出血	17 件	創傷	6 件	転倒	5 件

平成 30 年度総件数 89 件 平成 31 年度総件数 43 件 令和 2 年度総件数 39 件

ヒヤリハット件数対比表

平成 30 年度	転倒	26 件	皮下出血	15 件	転落	12 件
平成 31 年度	転落	68 件	転倒	65 件	皮下出血	51 件
令和 2 年度	転落	92 件	転倒	50 件	皮下出血	30 件

平成 30 年度総件数 116 件 平成 31 年度総件数 369 件 令和 2 年度総件数 312 件

- ② 新型コロナウイルス感染症及び季節性感染症について、毎月感染症対策委員会を開き時季に応じた感染症の同行を確認し、事前の予防・対策を図った結果、感染者はおられませんでした。

※嘱託医と連携し、対象者：3名の抗原検査（PCR 検査）を実施。全員陰性でした

2) 苦情に関して

入居者・家族への細かなコミュニケーションや連絡・近況報告（写真付き手紙）を適切に行い施設での状況をタイムリーにお伝えし、ご家族の意向も踏まえた対応・ケアの実施に繋げることにより、令和 2 年度の苦情は 0 件でした。

また、2ヶ月に1度、苦情解決委員会を開催し、第三者苦情委員に参加頂き、地域の介護相談についても即 対応しました。

苦情件数対比表

平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
0 件	0 件	0 件

3) 防災対策について

非常食の食数の見直しも行い 5 日分を常備しています。また、特養共同の防災計画に基づき、消防訓練・救急法実践訓練を実施しております。

給食部門

1 バイキングについて

今年度はコロナウイルス感染症が流行する中でしたが、感染症対策を行いながら月一度のバイキングを実施しました。献立は季節のものを多く取り入れることを心がけて作成し、入居者の皆様には日常とはまた違った特別感のある料理を楽しんで頂きました。

令和2年度の途中から感染症予防対策としてバイキング形式を中止し、お楽しみメニューとして提供しました。

<バイキング風景>



チキンソテーりんごソース



1F 食堂 バイキング会場



人気 No. 1 にぎり寿司

～お楽しみメニュー～

実施日	献立内容
4月13日(月)	山菜おこわ ミートパイ 季節のお造り 和風ロールキャベツ エビチリソース れんこんまんじゅう 茶碗蒸し じゃがいもポタージュ 濃厚杏仁豆腐
5月14日(木)	にぎり寿司 桜えびと春キャベツのペペロンチーノ 春カツオの薬味サラダ 豚肉大葉チーズ巻きフライ ハンバーグおろし玉ねぎソース 筍とアスパラのバター醤油炒め 玉子豆腐冷やしあんかけ あさりの赤だし 抹茶ムース
6月11日(木)	鮭イクラ飯 クロワッサンサンド 季節のお造り 海老ポテト衣フライ チキンのトマト煮 焼き茄子とろろがけ 茶碗蒸し 冷やしそうめん 季節のフルーツ
7月10日(金)	鮎めし ちゃんぽん焼き 季節のお造り 天ぷら盛り合わせ なす肉巻き煮 ゴーヤーサラダ 手作り豆腐冷奴 夏野菜ミネストローネ クリームあんみつ
8月18日(火)	サラダちらし エビクリームパイ 季節のお造り ゴーヤーボートの肉詰め 丸ごとえびの春巻き 茄子おろしあん 玉子豆腐 夏野菜豚汁 黒ゴマプリン
9月9日(水)	松茸ご飯 厚焼き玉子のサンドイッチ 季節のお造り 白菜とひき肉の重ね煮 さんまの梅しそ天ぷら 秋野菜のマリネ 茶碗蒸し 一口鶏塩そば 2色ようかん

10月12日(月)	栗ごはん えびのトマトクリームニョッキ 季節のお造り 長芋豚巻きフライ 鮭とほうれん草のグラタン ぶり大根 茶碗蒸し 松茸と鰹の吸い物 クリームチーズパイ無花果ジャム
11月10日(火)	牡蠣ご飯 パイピザ 季節のお造り チキンソテーおろしりんごソース 鯖の竜田揚げきのこ甘酢あん 豚バラと白菜のおろし煮 茶碗蒸し 秋鮭のかす汁 さつまいもプリン
12月4日(金)	にぎり寿司 ブリとサーモンのカルパッチョ 海老マカロニサラダ カジキマグロのカレースティックフライ 鶏のイタリアン風ステーキ 玉子豆腐 一口とろろそば チョコムース
1月20日(水)	牛レタス炒飯 ソーセージパイ 季節のお造り 鶏つくねの梅照り焼き 海老アボガドチーズ春巻き 春菊ピーナッツバター和え 茶碗蒸し 牡蠣トマトクリームチャウダー オレンジムース
2月15日(月)	ネギトロ丼 蒸し鶏梅ソースがけ 豚肉しそチーズ巻きフライ カニ甲羅グラタン 帆立と菜の花のマリナ 茶碗蒸し 蛤の吸い物 桜もち
3月16日(火)	桜えびときのこのバター醤油混ぜごはん 季節のお造り 鯖のトマトソース煮 春キャベツのメンチカツ 春野菜天ぷら 手作り豆腐 貝だし塩ラーメン 苺ヨーグルトムース

2 行事報告(行事食及び給食関係)

<特養>

日程	行事内容
4月2日(木) 3日(金)	特養行事・お花見(弁当の発注、配膳)
4月24日(金)	本館・お誕生日会 おやつ作り(食材準備・調理指導)
5月22日(金)	本館・お誕生日会 おやつ作り(食材準備・調理指導)
5月23日(土)	新館・お誕生日会 おやつ作り(食材準備・調理指導)
6月26日(金)	本館・お誕生日会 手作りケーキ作成
7月6日(月)	本館・おやつ作り(食材準備・調理指導)
7月10日(金)	特養行事・七夕 おやつ作り(食材準備・調理指導)
7月20日(月)	本館・お誕生日会 おやつ作り(食材準備・調理指導)
7月22日(水)	本館・おやつ作り(食材準備・調理指導)
8月6日(木)	ユニット・ビアガーデン(食材準備)
8月13日(木)	新館・お誕生日会 おやつ作り(食材準備・調理指導)
8月20日(木)	新館・かき氷(食材準備・調理指導)
8月28日(金)	本館・お誕生日会 手作りケーキ作成
8月29日(月)	特養行事・そうめん流し(食材準備・衛生指導)

9月16日(水)	本館・敬老会 おやつ作り (食材準備・調理指導・衛生指導)
9月30日(水)	本館・お誕生日会 おやつ作り (食材準備・調理指導)
10月28日(水)	本館・ハロウィンパーティー おやつ作り (食材準備・調理指導)
10月30日(金)	新館・お誕生日会 おやつ作り (食材準備・調理指導)
11月3日(火)	新館・鍋パーティー (食材準備・調理指導)
11月13日(金)	特養行事・焼き芋 (食材準備)
1月19日(火)	ユニット・お誕生日会 手作りケーキ作成
2月27日(水)	本館・お誕生日会 おやつ作り (食材準備・調理指導)
3月28日(水)	本館・お誕生日会 おやつ作り (食材準備・調理指導)
3月29日(月)	特養行事・お花見 (花見弁当作成)
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>手作り花見弁当</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>しらさぎの里 正面玄関</p> </div> </div>

<デイ>

7月3日(金) 4日(土)	そうめん流し (食材準備・調理指導・衛生指導)
9月15日(土)	おやつ作り「フルーツサンド」 (食材準備・調理指導・衛生指導)
8月21日(金)	ミニ夏祭り 模擬店「チョコバナナ」 (食材準備)
10月26日(金)	おやつ作り「フルーツサンド」 (食材準備・調理指導・衛生指導)
12月18日(金)	クリスマスデザート (手作りケーキ作成)
3月25日(木)	お花見 (弁当発注)

3 嗜好調査について

個別嗜好調査として、月1回の頻度で栄養士・厨房職員による聞き取り調査を行いました。

特養入居者・ショートステイ利用者・デイサービス利用者を対象とした嗜好調査を行い、結果に基づいた献立作成を心がけました。入居者・利用者の生活歴や意見に触れることができ、職員意識の向上に反映させることができました。

また、今年度もデイサービス利用者を対象にした一斉嗜好調査を年1回実施。一斉に実施することで喫食者の意見をデータ化することができ、より良い給食運営につながりました。

4 ソフト食の定着化

咀嚼・嚥下困難の入居者が安心・安全に食事をして頂くため、主菜の一部にソフト食を導入しています。令和2年度はソフト食提供の定着化を達成することができ、今後さらに食材の種類を増やしてより安全においしく食べて頂くことが目標です。

＜ソフト食の一例＞



普通食 ～カレイの磯辺揚げ～



ソフト食

5 手作りケーキ作成

お誕生日会を企画し、栄養室職員による特性ケーキを用意しました。完成度の高いケーキと職員や他の入居者様と一緒に祝いすることで、誕生日が特別で楽しい時間になるよう介護職員と連携してお誕生日会を実施しました。

デイサービスでは数種類のスイーツを盛り合わせたクリスマス・デザートプレートを作成しました。



お誕生日会ケーキ①



お誕生日会ケーキ②



クリスマスデザート

6 男の料理教室への参加・指導

今年度はコロナウイルス感染症予防対策の観点から、料理教室の開催は見送りました。

今後、少子高齢化社会が進むにつれて独居になる、あるいは介護する立場になる可能性のある男性が増えており、そのニーズに応えるため栄養室は男の料理教室への参加・指導を重要な地域貢献の取り組みの一つとして捉え、料理教室再開に向けて準備をしております。

以上

令和2年度

事業報告書

デイサービスセンターしらさぎ

1 デイサービス利用状況

(月別平均利用者数)

	月別平均利用者数		月別平均利用者数
4月	21.7名	10月	24.2名
5月	20.1名	11月	24.7名
6月	22.2名	12月	20.3名
7月	23.5名	R3.1月	21.0名
8月	22.1名	2月	22.9名
9月	23.5名	3月	25.4名

年平均 22.6名

介護度別平均利用者数

(総合事業)

	要支援1	要支援2
令和2年度	6名	15名

(通所)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
令和2年度	21名	11名	6名	5名	0名

平均介護度 1.4

(利用者年齢構成)

	男性	女性	合計
～69歳	0	0	0
70～74歳	1	1	2
75～79歳	4	3	7
80～84歳	4	16	20
85～89歳	4	18	22
90～94歳	4	20	24
95～99歳	4	3	7
100歳～	0	1	1
合計	21	62	83
平均年齢	86.3	82.6	84.4
最低年齢	70	72	
最高年齢	96	102	

2 住み慣れた地域での生活

- 1) 現有機能を活用しながら、ご自宅で行われている役割を続けていけるように、ご家族とご利用者の状態把握に努め、身体機能や認知機能の維持向上を目指した支援活動に取り組みました。
- 2) 身体機能を維持するために、定期的に身体を動かす機会や体操、機能訓練などを取り入れ、楽しみながら身体を動かすことができるように工夫しました。
- 3) ご自宅での生活が継続できるようにご自宅での様子、ご利用中の様子を踏まえ、少しでも快適に過ごして頂けるような提案を積極的に言い、ご家族の負担を軽減に努めました。
- 4) 転倒事故や体調不良などを予防し、生活リズムを安定させることで、身体機能の維持、活動意欲や認知機能の低下などの予防につなげました。
- 5) 身体機能や認知機能の低下を予防するため、体操、機能訓練、脳トレなどを取り入れ、定期的に身体機能や認知機能の測定を行い、数値的な評価を行うことでその成果を確認し、意欲を持って取り組みを継続できるように支援しました。
- 6) 機能訓練指導員による機能訓練では、個々に適した機能訓練を取入れ、身体のどの部分に効果があり日常生活の中でどのようなことができるようになるのかを説明し、意欲を持ち取り組んでいただけるように支援しました。

3 利用者の確保について

- 1) 中重度の方のご家族が負担を軽減しながら、不安なくご利用して頂けるように日々の状態を連絡帳によってご報告し、そのニーズに応えるため内部研修により職員の技術向上に努めています。
- 2) デイサービスの情報をホームページやチラシで発信しています。
- 3) デイサービス新聞を毎月発行し、ご利用者とそのご家族に配布しています。今年度は、生きがいデイやミニデイが新型コロナウイルスの感染拡大により休止した期間もあり、配布数が少なくなっていますが、電話連絡によりご様子をお聞きするなどご利用のメリットと関係性を維持できるように努めました。
- 4) ご利用者、ご家族の希望を確認し、そのニーズに対して柔軟に対応することで、信頼関係を築けるように努めました。
- 5) 休まれている方とは、定期的に連絡を取り、ご様子を確認し、相談に応じました。
- 6) 今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、地域の『ふれあい喫茶』なども中止され、人との関わりが無い中、デイサービスでの交流や活動を通じて日常生活の活性化を図りました。
- 7) 振替や追加利用の変更にも柔軟に対応し、ご家族の介護負担の軽減を図りました。
- 8) ご家族の置かれている環境や立場を理解し、コミュニケーションを通じて精神的負担の軽減が図れるように努めました。

- 9) 今年度は、今までにご利用のなかった居宅介護支援事業所からの紹介もありましたため、連絡を密にとり関係性を維持継続できるように努めたいと思います。
- 10) 体操教室は、対象範囲を広げ、参加者を増やすことを目標としていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、体操教室を開催することができませんでした。
- 11) 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言発令に伴い休む方いらしゃったため、一時は回復傾向もありましたが、平均稼働率については、64.7%に留まる形となりました。

4 サービスの質の向上について

- 1) ご利用者・ご家族の希望や特性を取り入れたケアプランを作成し、計画内容を職員で共有し、効果的に介護予防に結び付くよう働きかけを行いました。
- 2) 多種多様なプログラムを用意し、それぞれに楽しく集中して取り組める内容の他、栄養室と協力して調理を体験するプログラムも導入し、自宅でも日常生活に活かし自立支援につなげる計画でした。
- しかし、新型コロナウイルス感染症が流行したため、調理体験は中止せざるを得ず。代わって、栄養室が栄養に関する勉強会を開催し、その後に学んだ内容を振り返りながら手作りおやつを実食して頂いています。
- 3) 長時間座っていると、下肢の循環不良が起こりやすいため、浮腫み予防や血流の改善を目的とした、下肢を中心にした体操や散歩等、身体運動を多く取り入れました。
- 各ご利用者が取り組んでみたいものを聴き取り、積極的に導入し、継続的に効果的に取組むため、興味を持ち楽しんで取り組めるメニューを提供しています。
- 4) 機能訓練指導員による機能訓練では、各利用者に適した運動メニューを導入し、効果的に機能の向上を目指して取り組んでいただきました。
- 5) 行事は、感染予防を徹底しながら、出来る範囲での行事開催実現を目指し、ご利用者に季節感を感じ、参加・活動意欲を高めていただけるように取り組みました。

(年間行事)

4月	花見、誕生会
5月	誕生会
6月	火災避難訓練、誕生会
7月	そうめん流し、療育音楽、大正琴ボランティア、ドライブ、誕生会
8月	ミニ夏祭り、誕生会
9月	敬老会、誕生会
10月	ミニ運動会、合同災害訓練、誕生会
11月	お楽しみ会（ふしぎな太鼓）、誕生会
12月	クリスマス会、誕生会
R3.1月	誕生会

2月	誕生会
3月	誕生会

5 他事業所及び地域との連携

- 1) 居宅介護支援事業所やご家族との情報交換や相談機会を作り、地域の一員として社会参加ができる生活環境づくりに取り組みました。
- 2) 生きがいデイサービス事業では、同年代の方との交流を図り、趣味活動や体操、認知症予防など自立支援を踏まえた支援を行っていますが、『緊急事態宣言』により生きがいデイサービスも休止期間がありました。休止期間においても、定期的に各ご利用者に連絡を取り、利用再開に備えてご様子をお伺いしています。

(地域ミニデイ月平均参加者数)

下構総合センター	4名
太市中公民館	11名
太市西脇公民館	5名
山田・松山公民館	6名
アットホーム	1名

6月・・・西脇のみ、7月・・・下構、西脇、太市中、山田、アットホーム開催
(生きがいデイサービス)

月	一日平均利用者数	月	一日平均利用者数
4月	—	10月	11名
5月	—	11月	10名
6月	10名	12月	10名
7月	11名	R3. 1月	9名
8月	9名	2月	—
9月	11名	3月	13名

一日平均利用者数 10名

※R2年4月、5月、R3年2月は緊急事態宣言の為、休止

6 職員の質の向上について

(施設外研修)

日程	研修名	参加者
10月23日	認知症になってもべっちょない研修	則岡
9月10日 12月2日	高齢者虐待対応力向上研修	三木
12月17日	ケアマネジメント力向上会議	則岡
R3. 3月24日	介護保険サービス事業者に対する集団指導	山本

(施設内研修)

研修月	研修名	担当
4月	倫理法令順守について	三木
5月	緊急時の対応方法及び心肺蘇生法について実習（入浴時）	三木
6月	デいの役割について	則岡
8月	脱水及び熱中症について	福原
9月	記録を残すことの重要性と記録のポイントについて 新型コロナウイルス感染対策研修	三木 山本
10月	心配蘇生の実習	三木
11月	業務改善とマニュアルの見直し	三木
12月	新型コロナウイルス感染症マニュアルについて リスクマネジメントについて	山本 福原
R3. 1月	高齢者の身体拘束について	三木
2月	個人情報とプライバシーについて	三木
3月	レクリエーションによるコミュニケーション方法	三木

今年度は、新型コロナウイルス感染症により外部研修に参加する機会は少ない状況でしたが、感染症についての勉強会を多く行い、感染対策や感染予防の徹底を図るように努めています。

また、中重度の状態の方も多くなってきていることから、再度、移乗方法や体位交換、コミュニケーションについての勉強会なども行っています。

7 健康管理について

- 1) 感染症予防の為、来所時のうがい、手洗い、消毒、検温確認の徹底を図り、ウイルスや細菌を持ち込まないように、職員・ご利用者共に対策を実施しています。
- 2) ご利用者の既往歴を把握し、ご家族との連携をとりながら体調の変化に対し、早期発見、早期対応に努めています。
- 3) 中重度の方も安心してご利用できるように、ご家族と連絡を密に取り、居宅介護支援事業所とも情報共有するなど、柔軟にご相談に応じ対応を行いました。
- 4) 水分補給がご利用者の意思でいつでも行えるように、各テーブルにポットを常設していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大によりテーブルにアクリル板を設置したため、ポットが置けず、感染予防のためこちらで水分提供を行いました。

8 経費削減について

- 1) 備品の消耗・摩耗を軽減するため、定期的な掃除やメンテナンスを徹底して行いました。ゲームや製作に使用するものは、再利用可能な物を使用し、経費削減の為に手作り

するなど、過大な購入を控え資源を有効活用しました。

2) 時間内で仕事を終えるように、帰りの配車や人員を工夫するなどして、効率化を図っています。

(事故件数)

8件

転倒・・・2件（うち1件は生きがいデイ）

その他（爪切り）・・・2件

車の損傷・・・4件

(クレーム)

1件

以上

令和2年度

事業報告書

居宅介護支援事業所
しらさぎ在宅介護支援センター

1 サービス提供計画 について

1) ケアマネジメントを行うにあたり、毎月、担当利用者の自宅を訪問して、モニタリングを実施し、自立支援に向け、本人の強みを引き出すことに力を入れました。

また、インフォーマルサービスなども活用し、住み慣れた自宅で生活できるようにサポートを行いました。

2) 家族の介護疲れや自宅での介護ができないと判断した時は、ショートステイや入所施設をご紹介し、安心や安全の確保につなげました。

特定事業所加算Ⅱを算定しており、24時間、電話対応可能な体制をとり、介護相談や生活上の些細なことに対しても、きちんと受け止めて対応しました。

また、必要時には、併設の特別養護老人ホームしらさぎの里やデイサービスセンターしらさぎ、地域あんしん見守り支援サービスや地域包括支援センターと連携し対応しました。

3) 公正中立なケアマネジメントの実施に努めました。また、サービス事業所に偏りが生じた場合は特定事業所集中減算の対象となるため、利用者や家族の希望を聞き、介護保険のサービス事業所のサービス内容や特徴などをしっかり把握し、自己選択に必要な情報提供を行いました。

4) 困難ケースに対しては、その都度事業所内でケース会議を行い、必要に応じて、関係機関に相談し対応につなげました。その際、利用者の権利擁護に留意し、高齢者虐待の防止につなげ、地域包括支援センターなどの関係機関に相談し、連携を図りました。

2 経営基盤充実のための取り組みについて

1) 新規は、介護給付が40件、予防給付が7件の実績がありました。内訳としては、法人の特養入所8件、死亡・長期入院19件、他施設入所5件、自己都合等による終了が5件で合計37件の終了がありました。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、体調不良時に、自宅で過ごしたいと希望された方が目立ちました。

また、癌の末期であるため自宅で最期まで過ごしたいと希望される方もあり、自宅での看取りに関わることができました。令和3年度は、特定事業所医療連携加算の算定ができる予定です。

令和2年度の年間稼働率は、目標を90%、月の売り上げを200万円に設定していましたが、年間稼働率は86.9%、月の売り上げが平均182万円と目標には少し及びませんでした。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年4月の緊急事態宣言発令時は、

要介護認定更新時の利用者が一年間認定期間延長となり、有効期間も延長されました。そのような中で、平成 31 年度の認定調査が 30 件に対し、令和 2 年度は 10 件と減少しました。

稼働率の減少は、自宅での看取りや体調不良等で終了が増え、また自宅での介護が難しくなり、施設入所の利用者が増えたためだと考えられます。予防給付の新規は 7 件と少なかったのですが、平成 31 年度の年間平均が 32.5 件に対し、令和 2 年度は、年間平均で 34.3 件まで上がりました。予防給付から介護給付になるケースもありましたが、終了が少なく、継続してサービスを利用されたため、予防の件数を増やすことができました。また、法人のデイサービスを利用したい予防給付の利用者が増えてきたため、対応できる範囲で受けるように努めました。

コスト削減に向け、事業所内でも経費削減に努めました。また、営業時間内に仕事をこなせるように、仕事の優先順位を決め、各自分担してできる仕事は分担し、請求業務なども請求ミスを防止する体制をとりました。

- 2) 安定した事業所運営に取り組むため、新規の依頼時や介護相談などがあった時には、当日や次の日には対応するよう早期対応に努め、安心と信頼により紹介が得られる居宅介護支援事業所を目指しました。

新規利用者 受け付け

申込先	平成 31 年度	令和 2 年度
ご家族、本人	33	23
書写林田地域包括支援センター	8	14
大白書地域包括支援センター	14	7
病院	5	6
他事業所	0	3
合計	60	53

ケアプラン作成件数 予防給付

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援受託	33	38	34	34	33	33	35	36	36	32	31	32	411

3 連携の強化について

- 1) サービス事業所事業所との連携については、サービス担当者会議や研修などに参加し、利用者の情報共有や介護保険サービスの情報収集に努めました。

医療機関は、入院や退院時に、主治医や病院担当者との情報交換やカンファレンスに参加し、利用者の病状や介護方法などについて意見を聞き、自宅に戻られた時に、安心して生活を送ることができるように環境づくりなどの支援を行いました。

- 2) 対応困難なケースは、地域包括支援センターなどの関係機関と相談し対応しました。

また、併設の特別養護老人ホームしらさぎの里やデイサービスセンターしらさぎとも

連携し、早期対応・早期解決につなげました。

4 介護支援専門員としての質の向上について

- 1) 特定事業所加算の算定事業所として、質の高いケアマネジメントを行い、加算要件を満たすための取り組みを行いました。介護支援専門員の研修の受入れや他の法人の居宅介護支援事業所と、事例検討会を行い、職員の知識、資質の向上を目指しました。包括的継続的ケアマネジメントなどの介護支援専門員の連絡会に参加し、他事業所との情報交換を行い、知識を深め、情報収集の機会を作り、事業所内でも、最新の情報を取り入れ、毎月研修を行い、多様に変化する介護保険制度に円滑に対応しました。

令和2年度 外部研修

開催日	研修名称等	出席職員	開催場所
令和2年 7月16日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント会議	福岡・富永 松下・富永	白鳥城ウェルカム ハウス・スワン
9月7日～ 11月24日	主任介護支援専門員更新研修	松下	姫路労働会館
9月16日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント研修	富永	白鳥城ウェルカム ハウス・スワン
11月18日	西南ブロック包括的継続的 ケアマネジメント研修	富永・松下	白鳥城ウェルカム ハウス・スワン
令和3年 2月13日	西南ブロック包括的継続 ケアマネジメント研修	富永	白鳥城ウェルカム ハウス・スワン
3月24日	令和3年度介護報酬改正説明会・集団指導	富永	姫路文化センター (We b研修)

令和2年度 事業所内研修

開催日	研修名称等
令和2年4月23日	法令遵守について
5月18日	訪問看護による胃ろうの管理について
6月1日	ターミナルケアと介護支援専門員の役割
7月1日	食事量低下の方への対応策や栄養補助食品の活用について
8月3日	今後増えていく在宅医療活用について
9月28日	認知症の方への関わり方 受診の進め方について
10月1日	感染症予防「新型コロナウイルス」について
11月30日	高齢者虐待について
12月1日	8050問題について
令和3年1月25日	精神疾患のある方との関わりについて
2月4日	心疾患について「治療法や症状別 対策について」
3月15日	権利擁護について

5 地域との交流と連携について

- 1) 地域の方が参加しやすいように、アットホーム林田しらさぎで、ふれあいサロンや地域交流講習会の計画をしていましたが、新型コロナウイルス感染症が流行していたので、感染症予防のため、中止しました。
- 2) 2ヶ月に1回、六九谷公会堂で、相談窓口を開催させていただいておりましたが、ふれあいサロンが中止になったため、相談窓口も開催できませんでした。
- 3) コロナ禍ではありますが、10月26日、六九谷公会堂で、認知症・講演会「認知症を予防しましょう」を開催することができました。地域の方と一緒に認知症の勉強会を行い、法人の特養やデイサービスなどをご紹介します。

新型コロナウイルスが終息していないため、地域行事など再開できていない状況です。介護保険のことなど、地域の方に浸透できていないので、少人数での開催や、感染症予防を徹底するなど、令和3年度には、地域での勉強会開催に力を入れます。

以上

令和2年度

事業報告書

姫路市大白書地域包括支援センター

1 職員体制

- ・ 統括責任者... 1名（兼任） ・ 保健師等... 1名 ・ 社会福祉士... 1名
- ・ 主任介護支援専門員... 1名 ・ 認知症担当... 1名 ・ 指定介護予防支援従事者... 3名

2 活動実績

1) 相談総数（件）

電話	来所	訪問	その他 (メール・FAX)
606件	134件	215件	9件

2) 相談者総数（件）

本人 家族	行政機関 (市役所)	行政機関 (警察)	他の 地域包括	ケアマネ	サービス 事業所	医療機関	他の 関係機関	民生委員	地域団体
675件	74件	14件	10件	97件	40件	162件	39件	37件	18件

3) 相談内容（重複計上あり）

区分		件数
一般相談	介護予防に関する事	0件
	介護相談	35件
	医療・健康相談	2件
	生活相談	60件
介護保険制度全般		589件
総合相談に関する事		0件
フォーマル サービス	保健福祉関係	0件
	その他	0件
インフォーマルサービス		0件
権利擁護関係	虐待	12件
	消費者被害	0件

	成年後見等	2件
その他		227件
ケアマネジメント支援		1件
	計	928件

4) ケース検討会（地域ケア会議の開催）... 17件

相談総数、相談者総数、相談内容の内訳は、ともに昨年度より2倍増加している。
介護保険や生活に関して、本人や家族からの電話相談が最も多かった。

3 介護予防ケアマネジメントに係る活動介護予防普及啓発事業

① いきいき百歳体操の活動支援...21カ所

白鳥：柴崎公民館、川西台公民館、実法寺総合センター、フルーツガーデンさかい
西市民センター健康増進室（健康作りの会、コスモスの会）コープつどい場

太市：丸山公民館、相野公民館、石倉公民館

青山：青山東集会所、西夢前台1・2公民館、人丸神社、青山苑、青山西公民館、青山公民館、青山北公民館、青山南山集会所、特養あおやま、教専寺、一般民家

② 認知症サロン 11カ所

白鳥：はつらつ夢クラブ、柴崎ピンピンクラブ、おしゃべりサロン、
健康づくりの会、コスモスの会

青山：健康体操夢クラブ、東遠山さくらサロン、レモンクラブ、
青山北いきいきサロン、花水木の会

太市：相野すみれサロン

③ 認知症サポーター養成講座（1カ所）

白鳥校区：1件（3/22 かのき学園職員と地域住民）

④ 自主活動グループの活動支援：男性料理の会：コロナ感染予防のため開催なし

⑤ 男性介護者のつどい：毎月、西保健福祉SCの相談室にて開催、介護者と地域包括支援センター職員で情報交換や相談を受けている。

⑥ 講座開催

- ・いきいき相談室（実法寺総合センター）年10回
- ・白鳥公民館講座 年6回

⑦ 11/25 シルバーヘルパー研修（青山・白鳥）

⑧ 生活・介護支援サポーターの活動支援

地域包括支援センターでの活動 2名

- ⑨ ふれあい食事会...白鳥校区（5回）

4 介護予防支援に係る実績 ※（ ）内は前年度実績数

自前プラン総件数	委託プラン総件数	新規利用者件数
2,569件 (2,538件)	904件 (880件)	158件 (113件)

自前プラン総件数は2569件、委託プラン総件数は904件、新規利用者数は158件、いずれも20～30件程度の増加。

担当校区（青山・白鳥・太市）の高齢化に伴い、介護認定申請とサービス利用が増えている。プラン件数は委託が増えている。今後も同様の現象は2025年の高齢化率のピークに比例して予想ができる。姫路市の第8期介護保険福祉計画に従い、介護予防支援を継続していく方針である。

5 包括的継続的ケアマネジメント

- ① ケアプラン研修会の開催（年間4回）

	テーマ	講師	場所	参加数
第1回 (7月16日)	「コロナ対策とケアマネの倫理について」	ブロックリーダー	白鳥城ウエルカムハウス・スワン	46人
第2回 (9月16日)	事例検討	ブロックリーダー	白鳥城ウエルカムハウス・スワン	43人
第3回 (11月18日)	「コロナウイルスの正しい知識と感染時の対応」	中央保健センター 保健師	白鳥城ウエルカムハウス・スワン	41人
第4回 (2月17日)	「対人援助技術としての質問力」	ブロックリーダー	白鳥城ウエルカムハウス・スワン	36人

- ② 居宅介護支援事業所の介護支援専門員との同行訪問

（困難事例への対応、委託プランへの対応 計12件）

- ③ 介護支援専門員からの相談対応（ケアマネ支援） 97（1）件

- ④ 地域包括支援センターだより『ほうかつ新聞』の回覧、配布（毎月15日発行）

目的...地域の活動に対する理解、協力、連携、情報の周知、啓発・注意喚起等
配布場所... 以下のとおり

- ・各小学校区（白鳥・青山・太市）
自治会長・自治会役員・民生委員・老人クラブ連合会長・老人クラブ会長
- ・各町の公民館
- ・各種サービス事業所
（特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、ケアハウス、小規模多機能、グループホーム、居宅介護支援事業所等）
- ・金融機関、医療機関
- ・その他（自立活動グループ、いきいき百歳体操、認知症サロン参加者など）

6 職員の資質向上のための取組み

1) 姫路市が開催する連絡会及び研修会への参加

- ・社会福祉士（連絡会3回・うち1回は研修会）
- ・主任介護支援専門員（連絡会3回・うち1回は研修会）
- ・保健師等（連絡会3回・うち1回は研修会）
- ・認知症担当（連絡会3回）
- ・管理者連絡会（4回）
- ・準基幹圏域連絡会（3回）
- ・準基幹圏域認知症担当の連絡会（2回）
- ・ケアマネジメント力向上会議（計6回）

2) 広域的に開催される連絡会及び研修会（外部研修会等）への参加

- ・姫路市社協ふれあいネットワーク研修会（1回）
- ・令和2年度集団指導（1回）
- ・西播磨地域包括・在宅介護支援センター連絡協議会総会（1回）

3) 内部研修会の開催（年12回）

開催月	研修内容	担当者
4月	個人情報・プライバシーの保護について	杉本
5月	倫理と公正中立性の確保について	竹田
6月	法令遵守について	田中
7月	認知症の予防と対策について	山田
8月	地域包括ケアについて	大崎
9月	権利擁護について	有末
10月	高齢者の健康管理と栄養について （健康なお口でいきいき生活）	青田

開催月	研修内容	担当者
11月	防災学習「自分の命は自分で守ろう」	有末
12月	事故発生時の対応について	田中
1月	ケアマネジメント力の向上について	富田
2月	高齢者虐待防止とその対応について (総合相談・ソーシャルワークについて)	田中
3月	地域支え合い会議について	青田

7 災害対策に向けた地域との連携

8月 青山南3丁目防災訓練見学

8 その他

- ・ 定例会議 毎月開催（毎月、事業計画の進捗状況の振り返り及び方針検討）
- ・ 苦情解決委員会 偶数月・年間6回（年間の苦情相談発生件数 1件）
- ・ 運営推進会議グループホーム、小規模多機能ホーム...各2か月に1回
（サザンツリー、小規模多機能ホームさかい、サンホーム青山）
- ・ 実習生の受け入れ...姫路赤十字看護専門学校（4回 各回2名ずつ 計8名）
国立姫路医療センター附属看護学校（1回 計2名）
- ・ 姫路市地域包括支援課による実地指導監査の受審（8月28日）

以上

令和2年度

事業報告書

アットホーム林田しらさぎ

地域の高齢者が集い、交流を図り、日常生活の不安解消や社会とのつながりを維持することが出来る環境を目指し、地域福祉の拠点として介護予防を推進するため、介護保険制度を補完しつつ、高齢者の安心が伴う生活を築き、活動の場とその機会が広がるように支援しました。

1 地域ニーズに応じた活動

- 1) 地域包括支援センター・地域各種団体との連携を通じ地域ニーズ把握に努めました。
 - ・ 地域ニーズの把握については、電話の他、挨拶訪問や会議の席を利用して、地域との連携維持を兼ねた意見交換や情報交換を行い、継続的に取り組みました。
- 2) 地域における介護予防や当事業所の役割・存在意義の理解を広め、サービス拠点として機能の充実化を図るための取り組みを検討しました。
 - ・ ふれあいサロン運営については、人員配置が困難なうえ、新型コロナウイルス感染症対策のため活動機会を見出せず、実現しませんでした。
 - ・ 地域交流講習会や体操教室、介護相談会等については、新型コロナウイルス感染症対策のため開催できませんでした。

2 介護予防について

- 1) 地域高齢者が安心して生活を送ることができるように、LSAが地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・自治会・民生委員と連携し見守り機能を果たしました。
 - ・ 24時間見守り支援は、安否確認と随時相談を可能な範囲で行いました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪問による安否確認は自粛、電話を基本的な手段として実施継続しました。
 - ・ 生活支援サービスに移動支援を加えサポートを充実。しかし、感染拡大により活動の自粛を強いられました。
 - ・ 見守りの契約対象者は、4月段階の7名から9名に増加。法人が運営する介護サービス事業との併用、連携し、感染症対策を伴いながらも総合的に支援を継続しました。
- 2) 地域で身近な介護相談窓口として活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、各種催しが実現せず、同時に介護相談窓口の開催も中止としました。
- 3) 認知症勉強会・ミニデイ・ふれあいサロン・介護者の集いなどを開催し、高齢者の閉じこもり予防や地域交流の場としての役割機能を果たす予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、年度内活動休止となりました。
地域交流講演会・ミニデイ・介護技術講習会・ふれあい喫茶・介護相談室（休止）

NO	開催 日程	外部研修 研修(出張)内容	参加者 (出張者)	会場
1	6月12日 8月7日 9月11日 11月13日 12月11日	認知症疾患医療センター研修会	青田・富田 山田・田中	姫路市医師会
2	6月29日	県老協 第一回研修委員会	施設長	兵庫県福祉 センター
3	7月14日	県老協 施設長研修会事前会議	施設長	WEB
4	7月15日	NDソフト 2021年介護報酬改定とCHASEと補助金活用セミナー	施設長	WEB
5	7月16日	第1回西南ブロック包括的継続的ケアマネジメント研修	福岡・富永 松下・長谷川	ウエルカム ハウススワン
6	7月16日	姫路市健康福祉課 社会福祉法人運営研修	理事長 世良監事	イーグレ ひめじ
7	7月29日	県老協 施設長研修会	施設長	WEB
8	8月5日	西播介護サービス連絡協議会オンライン研修会	青田	WEB
9	8月6日	県中播県民センター 高齢者・障害者の消費生活防止研修会	田中	県姫路職員 福利センター
10	8月12日	姫路市地域包括支援課・認知症サロンにおける早期発見・対応研修会	山田・田中	防災センター
11	9月1日	国勢調査任命及び調査員事務説明会	上田義	姫路市役所
12	9月4日	安全運転管理者講習会	上田義	姫路市民会館
13	9月7日他	主任介護支援専門員更新研修	松下	姫路労働会館
14	9月10日 9月29日	県社会福祉士会 2020年高齢者虐待対応力向上研修A・D	田中	姫路じばさん ビル
15	9月10日 12月2日	県社会福祉士会 高齢者虐待対応力向上研修	三木悠	姫路じばさん ビル
16	9月14日	地域包括支援センター新任職員研修	田中	姫路市総合福 祉会館
17	9月16日	第2回西南ブロック包括的継続的ケアマネジメント研修	富永	ウエルカムハ ウススワン
18	9月18日	県老協 地域サポート施設推進事業事例発表	高濱	WEB
19	9月23日	県老協 青年部会WEBミーティング	施設長	WEB
20	9月25日	県老協 職員研修会(新型コロナ発生施設として)	施設長	WEB
21	9月28日	姫路市医療介護連携会議 ケアの標準化部会	施設長	姫路市医師会
22	9月29日	姫路市総合事業A・C型実践モデル事業説明会	竹田・杉本	WEB
23	9月30日	姫路市 ケアマネジメント力向上会議	竹田	姫路市南保健 センター
24	10月6日	県老協 介護職員等の人生の最終段階における対応向上研修会	施設長	WEB

NO	開催 日程	外部研修		参加者 (出張者)	会場
		研修(出張)内容			
25	10月22日	生涯現役社会ワークショップひょうご2020		上田義	神戸市教育会館
26	10月22日 11月12日	姫路市成年後見支援センター公開講座		田中	姫路市総合福祉会館
27	10月23日	県経営協 令和2年度10月例会		理事長	WEB
28	10月23日	西播磨総合リハビリテーションセンター 認知症になってもべっちゃくない研修		則岡	西播磨総合リハビリテーションセンター
29	10月26日 11月2日 12月3日	姫路市保健所 精神保健福祉支援者研修		青田・山田・ 田中	姫路市総合福祉会館
30	11月6日	姫路市 高齢者障害者施設新規入居者に係る PCR検査事業説明会		春本	姫路市役所
31	11月9日	姫路市老施連 施設長及び職員研修会		施設長	WEB
32	11月10日	姫路市社会福祉大会		富田	姫路市民会館
33	11月11日	ケアマネジメント力向上会議		竹田・杉本	姫路市総合福祉会館
34	11月11日	県老協 介護の日イベント		施設長	ホテルクラウンパレス神戸
35	11月12日	R2年度キャラバンメイト養成研修		山田	赤穂市中央公民館
36	11月13日	キャラバンメイトフォローアップ研修		富田	姫路市総合福祉会館
37	11月17日	西播磨在介協 研修会及び情報交換会		施設長・青田 田中	モントレ姫路 (WEB)
38	11月18日	姫路市老施連 地域サポート施設推進事業研修会		理事長	WEB
39	11月18日	第3回西南ブロック包括的継続的ケアマネジメント研修		富永・松下	ウエルカムハウスワゴン
40	11月19日	県老協 第三回研修委員会		施設長	WEB
41	11月19日	県老協 職員研修会「モチベーションアップの7つの魔法」		施設長	WEB
42	11月27日	地域包括支援センター保健師看護師連絡会研修会		青田・山田	姫路市防災センター
43	12月3日	認知症初期集中支援チームフォローアップ 認知症地域医療連携関係者スキルアップ研修		山田	WEB
44	12月4日	県経営協 定例研修会		理事長	WEB
45	12月8日	姫路市監査指導課 人材確保・育成研修		施設長	姫路市役所
46	12月10日	県経営協 法人経営トップセミナー		理事長	WEB
47	12月11日	介護支援ボランティア交流会		青田・山田	姫路市役所
48	12月15日	姫路市医療介護連携会議 ケアの標準化部会		施設長	姫路市医師会

NO	開催 日程	外部研修		参加者 (出張者)	会場
		研修(出張)内容			
49	12月17日	姫路市地域包括支援課 ケアマネジメント力 向上会議		則岡	総合福祉会館
50	12月18日	城乾・東光準基幹地域包括支援センター圏域連絡 会		青田・田中	姫路市保健所
51	12月18日 12月22日	NDソフト R3 年度介護報酬改定の詳細と 事前対策		施設長	WEB
52	12月25日	姫路市保健所 ゲートキーパー研修会		富田・田中	姫路市保健所
53	1月14日 1月15日	全国ユニット型施設推進協ユニットケア研修		山本秀・満田	WEB
54	1月15日	県健康福祉部 介護予防のための地域ケア個 別会議の普及展開に向けた多職種合同説明会		青田	姫路じばさん ビル
55	1月20日	姫路市老施連役員会		施設長	モントレ姫路
56	1月28日	県経営協 兵庫県経営協セミナー(後期)		理事長	WEB
57	2月4日	姫路市地域包括支援課 地域マネジメント会議		富田	姫路市総合福 祉会館
58	2月12日	県老協 R2 年度軽費・ケアハウス部会「施設 長研修会」		施設長	WEB
59	2月17日	第4回西南ブロック包括的継続的ケアマネジ メント研修		富永	ウエルカムハ ウススワン
60	2月18日	兵庫県老協 施設長研修会②		施設長	WEB
61	3月2日	兵庫県老協 移動と食を支える生活支援体制 整備に向けた研修会		高濱	WEB
62	3月3日	兵庫県 認知症相談センター機能強化研修		山田	総合福祉会館
63	3月8日	姫路市 フレイル対策研修会		青田・山田 福岡友	WEB
64	3月8日	兵庫県社協 福祉人材確保・定着力向上研修		施設長	WEB
65	3月10日	姫路市 地域包括支援センター保健師看護師連絡 会		青田	総合福祉会館
66	3月11日	全国社協地域福祉部 福祉関係者が知ってお きたい任意後見制度		富田・田中	WEB
67	3月17日	県老協 第2回青年部会 オンライン総会		施設長	WEB
68	3月22日	R2 年度地域ケア会議市町・地域包括支援セン ター職員向け研修		青田・富田・ 山田	WEB
69	3月22日	姫路市老施連総会		施設長	モントレ姫路
70	3月24日	県健康福祉部 介護報酬改定説明会兼 R2 年 度集団指導		施設長・春本 山本・富永・青田	WEB
71	3月29日	姫路市 高齢者施設等の新規入所者・採用者 に係るPCR検査事業説明会		施設長	姫路市役所
72	3月30日	姫路市委託事業説明会・R3 年度人員体制報告		青田	総合福祉会館

令和2年度ボランティア活動実績

新型コロナウイルス蔓延・感染予防のため今年度のボランティア活動実績なし
以上